

「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」

報告書

令和3年3月
名古屋市

目 次

1	開催概要.....	1
	（1）趣旨.....	1
	（2）会場での説明会.....	1
	（3）オンライン説明会.....	2
2	会場での説明会の記録.....	3
	（1）説明会（会場：名東文化小劇場）の記録.....	3
	（2）説明会（会場：港文化小劇場）の記録.....	25
	（3）説明会（会場：西文化小劇場）の記録.....	51
3	アンケート結果.....	74
	（1）アンケート集計.....	74
	（2）アンケート内容.....	76
	①説明会アンケート用紙.....	76
	②名東文化小劇場.....	77
	③港文化小劇場.....	83
	④西文化小劇場.....	87
	⑤オンライン説明会.....	94

※ 本報告書の中で個人名にあたる箇所については、名古屋市個人情報保護条例第 11 条第 1 項に基づき、
（個人名）と記載を変更している。

1 開催概要

(1) 趣旨

令和3年1月に「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開催するものである。

(2) 会場での説明会

市内3会場で実施。各会場で学芸員による講演、本市からの説明、質疑応答を実施した。

①日時、会場、参加人数

日 付	時 間	会 場	参加人数
令和3年1月22日(金)	18:30~20:00	名東文化小劇場	57名
令和3年1月23日(土)	13:30~15:10	港文化小劇場	36名
令和3年1月31日(日)	13:30~15:10	西文化小劇場	60名

※1月22日については、政府からの緊急事態宣言に基づき、20:00終了とした。

②司会者

株式会社ソーシャル・アクティ代表取締役 林加代子氏(1月22日、23日)

株式会社都市研究所スぺーシア取締役 浅野健氏(1月31日)

③次第

1. 開会
2. 学芸員による講演
3. 名古屋市からの説明
4. 質疑応答
5. 閉会

④会場の様子



1月22日(金) 名東文化小劇場 講演



同 質疑応答



1月23日（土）港文化小劇場 講演



同 質疑応答



1月31日（日）西文化小劇場 講演



同 質疑応答

（３）オンライン説明会

①公開開始日時

令和3年1月22日（金）午前10時

②掲載場所

なごや動画館まるはっちゅーぶ 1ch（YouTube）へ掲載

③次第

名古屋市からの説明

④アンケート

令和3年1月22日（金）午前10時から令和3年1月28日（木）午後5時30分まで、オンラインにて受付。

2 会場での説明会の記録

(1) 説明会（会場：名東文化小劇場）の記録

① 開会

司会

ご来場いただきまして誠にありがとうございます。只今より、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたします。

私は、本日、司会進行を務めます、林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日の市民向け説明会の進行についてご説明いたします。

まず、名古屋城調査研究センターの学芸員による名古屋城についての講演を 30 分程行います。その後、名古屋城天守閣木造復元事業の状況について、15 分程の動画をご覧いただき、休憩を挟みまして、会場の皆様から、名古屋城天守閣木造復元事業についてのご質問などをお伺いいたします。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますようお願いいたします。

説明会の終了は政府からの緊急事態宣言に基づき、午後 8 時とさせていただきます。

次に、本日お配りした資料についてご案内いたします。受付で本日の講演冊子、説明会冊子、資料冊子、座席記入カード、アンケート用紙をお配りしております。説明内容は、スクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご確認ください。

また、座席記入カードとアンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収いたします。退場は、混雑緩和のため、座席のブロックごとにご案内させていただきます。

なお、報道機関による取材が入っている他、記録写真の撮影を行っておりますのでご了承ください。

はじめに、開会にあたりまして、名古屋市長河村たかしより一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい。それでは、河村でございますが、ようおいでいただきました。サンキューベリーマッチという事でございます。今日は僕の後に原さんといまして徳川美術館に、おられた大変高名な、美術の専門家でございますけど、今名古屋に来てもらったんですわ。名古屋市の職員として。話が聞けるといいますんで、楽しみにしててちょうだい。色々ご意見あるかわかりませんが、わしもこれね若作りしとるけど早 72 でよこれ、本当に八事が近づいてきたなこれ。ほんだで早うとにかく造ってちょうとお城をと、1000 年持つやつねこれ。世界遺産というか。僕は 50 年で国宝になると思いますよ。こんな図面に基づくですね、今日も竹中さんもお見えになるけど、どうも全部国産の木で、やれるようになったと、ええかねこれ。大体そんなふう聞いておまして、かの有名な奈良の薬師寺とか、ああいう東大寺だったかな。あれでも確か外材を使っただと、いつて聞いておりますけどねわし。全部国産でできるという事で、法隆寺は 1400 年です

か、1300。あれ造ってすぐいっぺん焼けとるんだ。議論がありましたけど多分焼けただろうと、すぐです。だから1300年前の建物ですけど。この間、ちょっとある勉強しておりましたら、65%だったかな。知らんわ、1300年前当時のヒノキだと。本物の昔の。という事だという記述がありまして、わしの気持ちからすると、72だであすぐあの世へ行きますけども、やっぱりこの世に生きとるですねこれ。ちょうどこの名古屋城が地震で、コンクリートで造ったやつが、大体持たんようになってきた時に、この時代にですね、あと1000年も、ずーっとこれ残してける、ものをつくれるというのは、これはね、やっぱり務めだと私は、任務だと、ミッションですね、人類の今を生きる人類の、ミッションだと。あと1000年後の、子ども、がきんちょは喜んでくれると思いますよ、今の世代の、名古屋のええもん残してくれたとこれ言って、みんなで交代で雑巾掛けに行くだがねこれ。なるほど言ってこれ図面があって、戦争で一旦焼けてまったんだ言って、それがまた蘇ったんでないかと。ええこったなあと。人間いうのは朽ち果ててもまた生き返るんだとこれ。というような事をですね、1000年後の子どもたちに語り継いでいけるんではないかと、思いながらという事でございます。まあそんな事で、今日は特殊なコロナの状況でございますが、1つよろしく願います。ありがと、サンキューベリーマッチ。

司会

講演に先立ちまして、先程の資料、配布させていただいた資料で少し訂正がございます。講演冊子と申し上げましたが講演冊子はございませんでした。申し訳ありませんでした。

従いまして、説明会冊子、資料冊子、座席カード、アンケート用紙のみとなります。ご了承くださいませ。

② 名古屋城調査研究センター学芸員による講演

司会

それでは、名古屋城調査研究センター学芸員の原史彦より、「名古屋城天守・櫓・御殿」と題して講演を行います。

—学芸員による講演—

③ 名古屋市からの説明

司会

ありがとうございました。

続きまして、天守閣木造復元事業の状況についての、名古屋市からの説明に移ります。こちらは15分程の動画をご覧ください。ナレーターは名古屋おもてなし武将隊、徳川家康です。また、名古屋城総合事務所所長佐治が登壇しまして、ナレーションの説明部分を、ポインターでお

示させていただきます。ご参照ください。それでは始めます。

名古屋おもてなし武将隊 徳川家康

名古屋おもてなし武将隊、徳川家康である。これから、名古屋市で現在取り組んでおる名古屋城天守閣の整備について説明してまいる。なお、より詳しい資料として別で資料編を用意しておる。参考に見てみるが良い。

名古屋城天守閣の木造復元事業について説明してまいる。現在の天守閣は、戦災による木造天守焼失後、1959年に建てられたものであるが、再建から60年以上が経過し、耐震性能の確保が課題となっておる。名古屋城には、先人の者達の苦労と努力により豊富な史資料が現存しており、名古屋城は唯一、史実に忠実な復元が可能と言われておる。

名古屋城は、天守の巨大さはもちろん、本丸御殿の規模、石垣の量、二之丸庭園の規模を見ても、日の本一の城郭と言えるのじゃ。

近世城郭の最高峰である名古屋城全体を整備していく事で、近世期の名古屋城本丸を実感できる歴史的、文化的空間を再現し、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解の促進、文化面及び観光面における魅力の向上、これらにつなげていきたいと考えておる。

特別史跡名古屋城跡の本質的価値とは、わし徳川家康の命により築城された尾張徳川家の居城であった城跡であり、現存する遺構や、詳細な史資料により、築城期からの変遷をたどる事ができる城跡であり、現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡である事じゃ。このような本質的価値の理解の促進のためにも、天守閣の木造復元事業を進めてまいる所存である。

現天守閣は、戦後復興の象徴であり、博物館としての役割を果たすなど、名古屋の誇りとして今もあり続けておる。木造復元事業を進めるにあたっては、現在の天守閣の記録・記憶を後世に伝えていく事も重要と考えておる。

さて、ここからは、復元事業の進捗状況について説明してまいるでな。まずは、き損事故への対応である。

き損事故とは、令和2年3月2日、重要文化財旧本丸御殿障壁画等を展示収蔵するための施設のオープンに向けて、外構工事を行っていたところ、地中に埋まっていた江戸時代の蔵跡と推定される石列をき損してしまったものである。天守閣木造復元を含めた、名古屋城の全体整備を進めていく中でこの事故が起こり、二度とこのような事が起きぬよう、真摯に反省し、組織を挙げて再発防止に全力で取り組む必要があった。

この事から、有識者や文化庁の指導、助言をもらいながら、再発防止対策を取りまとめ、令和2年6月26日に文化庁へ提出いたした。その後、き損した部分の詳細な調査を経て、現在は、修復作業を行っているところである。今後は、再発防止対策を徹底し、展示収蔵施設のオープンに向けた外構工事を再開する予定である。

次に、文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れである。

平成 31 年 4 月 19 日に、「現天守閣解体の現状変更許可申請書」を文化庁に提出いたし、それに対し、令和元年 9 月 24 日に文化庁から指摘事項が示されたのじゃ。その指摘事項において、文化庁から工学的視点に加え、考古学的視点からの調査・検討を求められておる。

不足しておる考古学的な調査として、具体的に、次の 4 つが示されておる。「内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査」「御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査」「大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討」「天守台石垣背面等の空隙についての調査」。また、この他に、現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討・整理、及び、木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出も求められておる。

現在、この調査や検討・整理を進めておるところで、令和 3 年 4 月にその結果を取りまとめたものを文化庁に提出していく予定である。この回答を行う事で、文化庁での議論を進めていただくなど、次のステップへ進む、一定の環境が整うと考えておる。

文化庁からの指摘事項への対応として、令和 2 年度に実施しておる調査を紹介いたす。

1 つ目に本丸内堀の発掘調査についてである。令和元年度に、黄色の範囲で実施した地中レーダー探査で、地中に何かが埋まっている、あるいは、空洞になっている可能性がある範囲がわかったのじゃ。この範囲において、図の緑色で示した、T 字の形状で発掘調査を行ってまいる。本丸内堀の発掘調査は、令和 2 年 11 月から開始しておる。

2 つ目に、御深井丸等地下遺構の発掘調査についてである。仮設構台・栈橋を設置する事とされている御深井丸については、地下遺構の状況を把握し、遺構が集中している箇所には、構台等を設置しないなどの検討が必要である。という文化庁からの指摘事項に対応するための調査である。現天守閣解体工事に伴う仮設構台設置範囲の地下遺構の状況を確認するため、図で赤色の四角で表示された 26 か所の位置において、トレンチ調査を行ってまいる。また、小天守西側の黄緑色の丸印の位置において、地下遺構の深さを把握するため、ボーリング調査を行ってまいる。この調査は、令和 2 年 12 月から調査を開始しておる。

3 つ目に、天守台石垣の背面における空隙についての調査である。これまで行ったレーダー探査では、栗石層に締固め密度が低いと考えられる反応が点在しておったが、特に孕み出し部にのみ、強い反応が認められる現況ではなかったのじゃ。調査箇所は、既往レーダー探査測線として赤色の縦方向の実線で示しておる。しかしながら、文化庁からの指摘事項に従い、より精度の高い情報を得るため、今回、大天守台北面の孕み出し部分を中心に、図の黒色の破線において、横方向 5 本、縦方向 3 本の追加レーダー探査を行ったのである。この調査は、令和 2 年 9 月に開始いたした。現在、調査結果を取りまとめ中である。

続いて、現天守閣の解体理由と木造天守復元に係る計画の検討・整理である。現在、木造天守復元の具体的計画を本丸の基本構想の中で整理をしており、これについても、取りまとめた上で文化庁へ追加情報として提出をしていく予定で進めておる。

以上の調査・検討・整理を行い、指摘事項に対する追加情報の提出を文化庁に行い、復元検討委員会で、審議いただき、最終的に、解体・復元を一体化した現状変更許可を得た上で、現天守閣の解体及び木造天守の復元工事に入っていく事になっておる。復元過程は公開を予定しておる。

次に、木材の調達及び保管状況である。

江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域から大量の木材を調達したという記録が残されておる。木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域を始めとした、木材関係者の協力をいただき、全国各地から調達しておる。平成 30 年 7 月の契約締結以降、木材を 2071 本調達した。また、木材は岩手県、岐阜県、愛知県、奈良県、高知県内の、それぞれ、倉庫に保管されておる。調達した木材は、直射日光を防ぎ、風通しが良い適切な環境で保管する事により、木材の品質を安全に保つ事ができるのじゃ。木材の表面が変色する事があるが、使用前に、修正製材を行うため、問題とはならぬ事、複数の宮大工の者から聞いておる。

次に、バリアフリーの検討である。

名古屋市は、木造天守の史実に忠実な復元と誰でも登れるためのバリアフリーを両立する事を目指しておる。史実に忠実に復元をしようとした場合、通常のエレベーターが設置できないため、史実に忠実な復元とバリアフリーを両立するための有用な技術を世界中から募り実用化する事といたした。検討状況といたしては、障害者団体の皆には丁寧に説明するとともに、新技術の公募についての意見をいただきながら、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立の実現に向けて検討する対話を進めて来ておる。

次に、機運醸成である。

木造復元事業の機運を高めるため、イベントを行っておる。VR 映像で木造天守の内部の体験や、木造復元天守の模型を体験するイベントを商業施設で行ったのじゃ。また、イベントブースや城内などでの寄附や金シャチパートナーからの寄附・支援もいただいております。いただいた寄附は、木造復元事業に活用させてもらっておる。

さて、最後になるが、復元事業の推進の取り組みとして、今後も、文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき、適切に対応し、史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、遺構等に影響を及ぼす事の無いよう、慎重に整備を進めるとともに、市民の皆の、木造復元事業への理解が深まるよう、機運の醸成に努めてまいる所存である。

以上で説明を終了いたす。名古屋城天守閣木造復元事業について、少しでも皆の理解を深めてもらう機会とする事ができていたら幸いである。ありがとさんじゃった。

④ 休憩

司会

ご清聴ありがとうございました。

それでは、準備のため、ステージを整えますので、5分程の休憩とさせていただきます。併せて、これ以降、閉会までの会場内のドアを開け、換気をさせていただきます。何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

休憩中のこの場を借りてご来場の皆様に催し物のご案内をさせていただきます。来たる3月より、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策への取り組みに対し、市民、事業者の皆様に感謝とエールを伝え、人・まちの元気を取り戻す一助を担うとともに、名古屋城の歴史的価値への理解を深め、魅力を知る機会を創出するため、名古屋城の金鯱を地上に降ろしご覧いただく、「名古屋城金鯱巡回展」を実施します。是非皆様足をお運びください。

⑤ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。

ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。なお、名古屋城調査研究センター学芸員による講演につきましてのご質問は、この場ではご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。天守閣木造復元事業についての質問に限らせていただきます。何卒ご容赦ください。

最初に、会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

はい、ではご紹介いたします。

名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の松雄でございます。

名古屋城総合事務所所長の佐治でございます。

整備室長の鈴木でございます。

主幹の荒川でございます。

主幹の荒井でございます。

調査研究センター副所長の村木でございます。

主幹の上土井でございます。

株式会社竹中工務店でございます。

あ、ごめんなさい。申し訳ありません。名古屋市ですね、主幹の森本でございます。申し訳ないです。ごめんなさい。

それでは、只今よりご質問を伺います。

ご発言につきましては、できるだけ多くの方からいただきたいと思いますと考えておりますので、お1人様3分以内で、簡潔にご発言いただきますようご協力をお願いいたします。なお、2分30秒になりましたら、私の方からお知らせしますので、残りの30秒にてお考えをまとめていただきたいと思います。手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちします。ご発言はマイクを通してお

願いたします。それではどなたかご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。こちらの列の、はい、今マイクお持ちしますお待ちください。

市民A

市民の南区の（個人名）といいます。

先程聞いた事は去年から進展が無くて、瑕疵があった、石垣、というか工事で瑕疵があった事以外は何も進展がない事と、資料に無い、鯨を触らせる、降ろして触らせる事について、今日は聞きたいと思ってまいりました。鯨を降ろす事はどこが、どんな目的で、どれだけの予算でやるかっていう事を教えてください。で、鯨については感染予防の観点で触らせる、お金を取って触らせるという事ですが、とても逆行してると思います。のんびりした時代に降ろして、万博に出すとか、そういう事を聞いた事がありますが、今、お金が無くて、大学生がバイトが無くて、満足に食べてないような状況の中で名古屋市も困ってる人、病気の人、病院の皆さんの事とか、そういう事を無視して、こういう、今までの大型プロジェクトってのはリセットしたり、見直す時期だと思うんです。その中で、あの鯨は誰がどんな権限で降ろして、それを聞いた人は壊すんか、戻すのかなあ、触るなんて今非常識だよね。コロナで接触しないという事を言ってるのに、なぜ触らせるのかなと。私達の周りではそういう声が出てます。私もそう思います。

それと、時期が3月の末でしたら市長選挙ですよ、市長選挙の利用になると思います。木造化したい人が出たとしたら完全に利用で、それは私物化です。公共の宝である名古屋城の部分を降ろして、誰が、それも何か市がやらなくて、実行委員会で会社とかがやるとかっていう事も聞いたんですけど、そういうような事をしては困るし、もう市民は木造は心には無い。もう本当に真面目に暮らしていける、コロナを生き抜ける、そういう名古屋市にして欲しいです。

司会

はい、ありがとうございます。

今のお話は3つですよ。去年から進展が無いじゃないのっていうお話と、それからシャチです、巡回展は、予算とか目的とかを一度確認したいと。多分その裏にはそのお金があるなら、コロナ対策の方にまわしたらどうかなって仰ってたのかなと思います。3つ目が、時期的にちょっと選挙に関わってくるんじゃないのかなっていう、ご懸念ですね。

はい、ありがとうございます。じゃあ最初ですね去年から進展が無いねっていうところは、はい。お願いします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

荒川と申します。よろしく申し上げます。質問ありがとうございます。確かに昨年度の4月に現天守閣解体の現状変更許可申請を提出してから、継続審議の状態が続いておりまして、文化庁

への手続きの進捗が目に見える形では現れてはおりませんが、解体の現状変更許可申請に対しては、文化庁から解体と復元は、一体で審議すべきであり、また、解体の理由が復元、木造復元であれば、その具体的計画を提出する事、とのご指摘もいただいております事から、徐々にではありますが、木造復元に向かって前進しているという風に考えております。現在指摘事項に対する、調査・検討を進めておりまして、4月には追加情報として回答してまいります。指摘事項への対応に一定の区切りをつけて、木造復元の議論を進めていただける環境を早期に整えてまいりたいと考えてございます。

司会

はい、ありがとうございます。では続きまして巡回展の方の目的とか予算についてお願いいたします。

上土井名古屋城総合事務所主幹

はい。金鯢巡回展についてお答えさせていただきます。今回金鯢を降ろすという事になりましたのは、新型コロナウイルス感染症にですね、市民の皆様、事業者の皆様ですね、大変協力をしていただいております、ご苦労されているといった事がございます。その中でですね、名古屋のシンボルであります、金鯢をですね、地上に降ろし、人・まちに元気を取り戻していただくという事でですね、行政と民間事業者で協力をいたしまして、このたび、金鯢を降ろしイベントを開催させていただこうという事で考えているところでございます。予算につきましてはですね、この企画にですね、賛同していただいている、事業者の皆様ですね、多大な出資をいただいております、その出資していただいたお金に、お金でもってですね、開催してまいりたいという風に考えておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

感染対策も。

上土井名古屋城総合事務所主幹

はい。もちろんですね、こういった状況ではございますので、金鯢にですね触っていただく前にはですね消毒ですとか、ソーシャルディスタンスという事で、人と人との距離を取っていただくですとか、そういった感染症対策はですね、万全に取らせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

はい。ありがとうございます。

では3つ目の、3月で市長選挙じゃないのっていう、ご指摘があったんですが、これはどうしたら良いでしょうか。どなたが。はい、じゃあお願いします。

上土井名古屋城総合事務所主幹

はい。このたびのですね、金鯢巡回展につきましては、あくまで感染症対策にご協力いただいております市民の皆様、事業者の皆様に感謝とエールを伝えたい、といった趣旨で開催をさせていただくものでございますので、そういった趣旨で開催をさせていただくものと考えております。

司会

はい。ありがとうございます。はい、では、すいませんありがとうございます。次の方を。はい。じゃあ黄色いジャケット着た方。

市民B

南区から来ました。(個人名)といいます。今日の説明会は、5年前に開かれるべき説明会だったんじゃないかね、というのが1つの大きな感想です。つまり、今日初めてどんな方向でどうやってお城を、耐震改修ないしは木造の改築をしていくかっていう話が、具体的な形で、提案されたんじゃないかなっていう事思うんですが。それでお聞きします。6ページに、文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れっていうのがありまして、そして、検討・整理っていうところを見ますと、現天守解体の理由が耐震対策のみか木造天守復元のためかの検討と整理をしてくださいっていう話で、この中身についてはこれがどうなっていくかどうなっているかっていう事は、今のところ説明がありません。で、更に、今まで木造で名古屋城ができるよ、できるよっていうので、実際にうまくいってれば、今頃は木造天守ができてたはずですよ。できないままこの2年間ずっと来てるわけです。そして、文化庁からもう一遍、名古屋市は、木造天守が目的なのか、耐震改修が目的なのか、その辺りがどうもよくわからんから整理してくださいって言われて、やっと今日のこういうような説明会の内容になったと思うんです。今まで説明会でありながら、木造を進める進めるっていう話しか、お聞きしてないんですね。で、文化庁の指摘に従って、とにかく木造の、復元も含めて、どんな風に名古屋城を造っていくか、という話が始まっていると思うんですが。そこでお聞きしたいのは、文化庁からの指摘事項への対応のところですね、色々発掘調査とか、ちゃんとしなさいと言われてるわけですよ。そうすると、何だっけ名古屋城の研究センターっていうのができたんだろうけど、その人数っていうか、スタッフだけでは足りないと思うんですよ。それから竹中さんがどこかの研究者とか、学生さんとか、大学の先生に頼んで調査をするにしても、相当の時間と、それから、

司会

あと 30 秒でお願いします。

市民 B

お金がかかると思います。そうすると、名古屋城はいつ、できるんですか。文化庁にいつその申請ができるんですか、という事が、全くこれではわからない。だけど、説明会をされたという事については、良いかなと、やっと初めてまともな説明会だと思うんですよ。こういう状況でこうですよ。はい。以上です。

司会

はい。ありがとうございます。ご協力ありがとうございます。

今のお話は、待ってた木造がまだできなかったんだけど、文化庁さんの方からは、耐震な木造なのっていうのを、また目的を再確認されてしまったんだけどそれは一体、どっちなのか、もう 1 回はっきりさせて欲しいんだっていう事かなと思います。で、今後の多分見通しみたいな事も入ってらっしゃるのかなと思いますので、それでよろしいですかね。はい。まずは、目的のところもう一度再確認をしていただければと思います。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。私の方からお答えさせていただきます。

先程調査研究センターの原の方からですね、講演にあった最後のところにございましたように、名古屋城というのは、木造復元ができる、ほぼ唯一といっても良いお城でございます。で、現状の現天守閣につきましては耐震上の問題もありますし、現在の用途である博物館としての機能不足といったところもございます。で、名古屋城については、耐震改修という方法もありますし、一方で、木造復元ができるという道もあります。その中で、名古屋城については、名古屋市として木造復元を進めていくというような方向で考えているというところでございます。

司会

はい、ありがとうございます。あと、今後の見通しを。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。申し訳ございません。

司会

お願いします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

現在文化庁様、あと地元有識者にご相談ご指導いただき、必要な調査・分析等進めております。調査・検討結果がまとまったものから、地元有識者会議にご議論いただけるよう準備を進めておるところでございまして、年度内に一定の取りまとめを行って、先程と繰り返しになって恐縮ですが、来年度、今年度の、いや今年の4月に文化庁へ追加情報として提出していきますので、そういった状況が整って来れば、次のステップに進んでいけるのかな、という風に思っております。

司会

ありがとうございます。では、次の方に、よろしいですかね。はい。大丈夫ですか。はい、じゃあ、すいませんあちらの、あ、もう1問、調査研究センターの、ごめんなさい。もう1回お願いします。調査研究センターの事についてお願いします、はい。

村木名古屋城調査研究センター副所長

はい。現在行っております調査が、調査研究センターの方で人数的に足りているのかというご質問かと思えます。現在名古屋城の調査研究センターで発掘調査と文化庁の指摘事項に対応する学芸員は考古学の専門の学芸員でございますけれども、定員として8名おります。その他に会計年度任用職員という職員もおりますので、そういった職員で、名古屋城は特別史跡でございますので、市の職員が調査にあたっていくというのが相応しいという風に考えておりますので、市の職員が、調査にあたっております。現在職員で調査進めておりまして、先程申しました通り、年度内に調査の方をある一定の目途をつけたいという風に考えておるところでございます。

司会

はい、ありがとうございます。失礼しました。

はい。では、はい。ありがとうございます。前のブロックの、はい。前お2人いらっしゃる中の前の方からお願いします。

市民C

質問事項も山程ありますし、言いたい事がもっとありますが、取りあえず、2点だけ質問させていただきます。本日のこの資料の中に、年表がありましたね、事業の経緯。これ平成27年から謳ってありますが、これ違いますよね。別に、名古屋城木造化なんていうのは、

司会

すいません。何ページですか。

市民C

資料の2ページです。

司会

はい。ありがとうございます。ありがとうございます。

市民C

名古屋城木造化なんていうのはですね。当たり前の、政策ではないわけですよ。市民が求めたものでもありません。平成26年6月の名古屋市定例会で、次のような発言がありました。天守閣につきましても、よく文化庁に問い合わせされましたけど、これはショッキングな話で、鉄筋コンクリートによる、もう1回再建は認めないという事を、文化庁がはっきり言っております。従いまして、あと何年持つかは知りませんが、30年なのか、50年なのか。100年なのかわかりませんが、もう朽ちた時に、あるいは壊さなければなりません。これは、平成26年6月27日の河村市長の発言です。しかし、よろしいですか。令和2年、去年、6月に、文化庁は、史跡等における歴史的建築物の復元のあり方に関するワーキンググループが、鉄筋コンクリート造天守等の老朽化への対応について取りまとめという文書を提示してます。この中には、鉄筋コンクリートの天守が、老朽化したならば、もうそれは取り壊さなければいけないなどとは書いてありません。つまり、鉄筋コンクリート造の天守を壊して、木造化しなければいけないという文化庁の方針などというものは無いんです。

司会

すいません。あと30秒で。お願いします。

市民C

つまり、この河村市長の発言は、全く根拠のない発言であり、根拠がなければ虚偽です。そうした、平成26年の6月の、この議会における発言の根拠を提示していただきたい。

司会

はい。

市民C

それと、すいません。もう1点だけお願いします。

司会

10 秒ぐらいに。

市民 C

では 10 秒で良いです。

司会

お願いします。

市民 C

現在名古屋市は、この木造化事業における、木材を買い付けております。しかし、これも、平成 27 年、平成 30 年、6 月定例会における第 97 号議案。この議案によって議会は、94 億円買い付け事業品の、費用の賛成をしておりますが、その時に議会は、附帯決議として、現状変更許可の、見通しが立った時点で、実際の買い付けを行う事としております。つまり名古屋市は、議会と、現状変更許可の見通しが立ったら、木材を買いいますという約束をしたんです。

司会

はい。

市民 C

ね。ところが、

司会

すいません。

市民 C

今日の、

司会

短く、もうお時間過ぎてますけど、

市民 C

今日の、

司会

はい。

市民C

この資料を見ても、文化庁から現状変更許可の申請、許可は出ておりません。それにもかかわらず、木材を買い付け、

司会

はい、

市民C

それ以外にも、

司会

ありがとうございます。

市民C

1年につき1億円ずつの保管料を支払っている。つまり、買う必要のない、木材を買い、

司会

はい。ありがとうございます。

市民C

払う必要の無いお金を払っているんです。

司会

はい。ありがとうございます。

市民C

そういう現状、なぜこの見通しを誤ったのか、そしてこの保管料について、どのようにされるのか。しっかりとご説明を願いたい。

司会

はい、ありがとうございます。ありがとうございます。今お2つあって、平成26年の6月議会

の発言と、それから文化庁が仰っている事とちょっとずれているんじゃない違うんじゃないのってその根拠は何だったんですか、というお話と、2つ目が木材買い付けについてですね。費用もかかっているの、その根拠は一体何だったんでしょうか、というお尋ねかなと思います。じゃあ、1つ目の事は。どなたが、はい。何か文化庁さんが言ってる事も変わってきたと思うんですが、という、

河村名古屋市長

文化庁、お城をどうするかと、戦後造ったコンクリートのお城がようけありますんでね、それをもう1回壊してまたコンクリートで造るという事は、これちょっとまずいですわな、という話があった事は事実でございます。その当時ね。

市民C（マイクなし）

その言い方と違うじゃないか。

河村名古屋市長

今もそう、同じような事じゃないですか。

市民C（マイクなし）

違います。

河村名古屋市長

あんた文化庁じゃないでしょう、しかし。

市民C（マイクなし）

だからこのペーパーを見りゃわかるんですよ。

河村名古屋市長

まあ良いけど。はい。そういう事です。そちらは。

市民C（マイクなし）

市長、あなたはこの6月のペーパーは見たんですか。

司会

えっと、

市民Ｃ（マイクなし）

見ました。

河村名古屋市長

新しい復元のコンクリートのやり方ね。

市民Ｃ（マイクなし）

はい。

河村名古屋市長

復元的整備とか書いてあるやつ。

市民Ｃ（マイクなし）

読みました。

河村名古屋市長

はい、読みました。

市民Ｃ（マイクなし）

じゃあ書いてあるじゃないですか。

河村名古屋市長

いやそれは色んな方法があり得るから。

市民Ｃ（マイクなし）

色んな方法じゃないんですよ。

司会

すいません。お時間がちょっと、

市民Ｃ（マイクなし）

嘘を言っているじゃないか。

河村名古屋市長

嘘言って

市民 C（マイクなし）

誰から聞いたんだあんたは。

河村名古屋市長

嘘って勝手に言ってもらっていかんよ。

市民 C（マイクなし）

平成 26 年 6 月の発言の根拠は何なんだ一体。

河村名古屋市長

いやその頃はそうでしょやっぱり

市民 C（マイクなし）

じゃあ、だから誰から聞いた言ってみろ。

河村名古屋市長

誰か言ったと思いますよ。

司会

おっきな声出していただくとちょっと今、

市民 C（マイクなし）

誰から聞いたか言ってみてくださいよじゃあ

司会

良くない

松雄名古屋市観光文化交流局長（マイクなし）

後でとにかくやりますので。

司会

そうしてください。今ちょっと大きな声出されると今ね、よく前に座ってらっしゃる方とかにご迷惑になるので

市民 C（マイクなし）

回答してないじゃないか。

松雄名古屋市観光文化交流局長

確かに、文化庁が、RC の寿命が来るからですね、全て解体しなさいっていう事は言っていないという事は、まさにその通りです。私どもワーキンググループの内容については存じておりまして、RC 天守の建物が本当に木造だろうか、あるいは延命化の措置をとるのかという事は、やはり良く自治体で考えなさいという風に言ってるのはその通りだと思います。ただ私ども名古屋市といたしますと、さっきの説明にもありますように、やっぱり全国のお城の中でも唯一、やっぱりその貴重な、大量のですね、そういう実測図等があるものですから、また市民の皆様の意見も踏まえてですね、木造化に舵を切りたいと、こういう事でございますので、ご理解をいただきたいと思っています。

市民 C（マイクなし）

論点を変えるな論点を。平成 26 年に、鉄筋コンクリートはもう改修はできないって言ったじゃないか

司会

はい。今お答えしますのでちょっとお待ちいただけますか。

（会場から）

他の人の時間とっちゃいかんでしょ。

司会

はい。ありがとうございます。

荒井名古屋城総合事務所主幹

すいません、木材。

市民 C（マイクなし）

終わってからにするわ。

司会

一言お願いします。

荒井名古屋城総合事務所主幹

木材についてちょっとご質問いただきましたので、お答えさせていただきます。ご質問いただいたその内容の通り、平成 30 年 7 月の定例会において、木材、契約、認めていただいておりますが、その中で、仰ったような附帯事項っていうのが附いておるのは事実です。ただ我々としては、木造復元っていうものをですね、実現していきたいという強い思いを持って取り組んでいるところがありまして、今回、2000 本近く、木材を調達できている状態ではありますが、それも、元々ですね、工程っていうのを作っておるスケジュールっていうのが今ありまして、そのスケジュールに沿った形で、木材を調達していかないと、今回使う天守閣で使う木材っていうものは、非常に径が太くて長いというような、

市民 C（マイクなし）

もう良い。

荒井名古屋城総合事務所主幹

はい。

市民 C（マイクなし）

時間がないから。あんたね、

司会

あの、時間

市民 C（マイクなし）

27 年の木造

司会

はい、

市民Ｃ（マイクなし）

去年の４月にできてた

司会

えっと。

市民Ｃ（マイクなし）

後でまた答えましょう。

司会

ご質問、ご質問ですか。

市民Ｃ（マイクなし）

回答してくださいよ。

司会

あ、ご質問ですか。

荒井名古屋城総合事務所主幹

そのスケジュールというものは、もともとプロポーザル始めて、

市民Ｃ（マイクなし）

良いつて。時間がないから。後から言つて。

司会

はい。

市民Ｃ（マイクなし）

答えくれりゃ良かったんだ。

司会

えっとすみません。

荒井名古屋城総合事務所主幹

わかりました。

司会

お時間が申し訳ないんですけども、本当 8 時にここ、終わりにしたいなと思っております、でもう 50 分になってしまったので、最後のお 1 人にすいませんさせていただきたくて。であちらの方がですねさっきごからめんなさいずっと手を挙げてらっしゃったんで、あちらの方優先させていただいて良いですか。申し訳ないです

市民 D

すいません千種から来ました（個人名）と申しますが、この市民向け説明会をですね、今回やった意義っていうのが何か良くわからなくて、前にも何回かやってますね。その時に、何回か出席者の方から、もう一度木造にするべきかどうか市民のアンケートを取ったらどうかという意見が何人かから出てます。だけど 1 度もそういうアンケートが取られてないんですけど、その辺はどうお考えでしょうか。

司会

はい。ありがとうございます。市民アンケートを取ってないよねっていうご指摘ですね。ありがとうございます。これはどちらが、はい、じゃ、お願いします。

上土井名古屋城総合事務所主幹

はい。市民アンケートをですね、もう一度取ったらどうかといったご質問でございます。まず、この市民向け説明会ですね、木造天守復元事業に対する、皆様のですね、理解を深めていただく事を今目的として開催しております。本市といたしましては、名古屋城天守閣の木造復元をですね、我が国に、我が国におけるベストな復元事例とすべく、丁寧な上にも丁寧に事業を進めていく考えでございます。従いまして、木造復元についての是非を問う再度の市民アンケートの実施といった事につきましては、現時点では考えておりません。よろしくお願いいたします。

司会

はい、ありがとうございます。はい、すいません。先程ですね、手を挙げていただいて申し訳ないんですけども、どうしても 8 時まで撤収をし、撤収というか皆様にご帰宅いただきたいなと思っております、こんな緊急事態宣言出ておりますので、ご協力いただければと思います。はい、申し訳ないです。それで、アンケートでございますので、今日ですねご質問されたかったのに、なかなか当ててもらえなかったねっていう方も是非いらっしゃると思いますので、この

後まだ説明会もございますしそれからのアンケートの方にですね、こんな質問あるんだけどっていうのもお書きいただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

ではですね、多くの方にご質問いただいてありがとうございました。閉会のお時間になりましたので、最後に、河村市長より一言、閉会のご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい。それでは、ようおいでいただきましてありがとうございます。まあまあ、色々ご意見があると思いますが、私と、というか当方としましては、何とか1000年後の、日本世界の宝をですね、今の世代で残してくという、任務ですね。そういうつもりで、ええお城を造っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。そんな事で今日は終了いたします。サンキューベリーマッチ、ありがとうございました。

司会

はい、ありがとうございました。

（会場から）

会場にお越しの、名古屋市市会議員の方、あなた方完全に、

司会

はい。今日ですねおっきな声でご発言いただくのはちょっとご遠慮いただけると。申し訳ないですけど。小さな声でお願いします。ではですね以上をもちまして、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を終了いたします。で、密になるのを避けたいので、ご案内を、退出のご案内をさせていただきますので、ご案内あるまで少しお待ちいただければと思います。退出の際ですが、座席記入カード、からアンケート用紙ですね、出口で回収いたしますので、あと先程のですねご質問ある方は、アンケート用紙にご記入いただければと思います。

本日は誠にありがとうございました。お忘れ物ないようにお気をつけてお帰りください。

（２）説明会（会場：港文化小劇場）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。只今より、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたします。私は本日の司会進行を務めます林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

始めに本日の市民向け説明会の進行についてご説明いたします。まず、名古屋城調査研究センターの学芸員による名古屋城についての講演を30分程行います。その後、名古屋城天守閣木造復元事業の状況について、15分程の動画をご覧いただき、休憩を挟みまして、会場の皆様から、名古屋城天守閣木造復元事業についてのご質問などをお伺いいたします。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますようお願いいたします。説明会の終了は午後3時10分となっております。

次に本日お配りした資料についてご案内いたします。受付で、本日の説明会冊子、資料冊子、座席記入カード、アンケート用紙をお配りしております。説明内容はスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でもご覧いただけます。また、座席記入カードと、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に出口で回収いたします。退場時は、混雑緩和のため、会場の前半部分と後半部分を分けまして、後ろの方からご退場をご案内させていただきます。

なお、報道機関による取材が入っている他、記録写真の撮影を行っておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

始めに、開会にあたりまして、名古屋市長、河村たかしより一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい、それではようおいでいただきましてありがとうございます。コロナもございますけど、また雨が降るとるような中でね、ようおいでいただきまして、サンキューベリーマッチという事でございます。まあお城につきましては、色々ご意見があると思いますんで、それぞれ出していきたいという事です。私からすれば、この務めというか任務というかですねこれ、なかなか、ヨーロッパの、前、ノートルダム寺院が、燃えましたよね。あそこあれの場合は木のところだけは燃え落ちましたが、こちら側は石だと思いますけど石とかレンガとかいうのは燃え落ちんもんだから、残るんです。だけど木の文化っちゅうのは、何にも無しになるよねこれ。空襲で。400年、尾張名古屋の生活はみんな苦しかったと思うけどそれでも名古屋のシンボルとして生き続けとった国宝1号ですから、名古屋城。姫路城だにやあでね。名古屋城国宝1号です。そのお城が、空襲という事でまた、徳川家康も空襲はちょっと想像できなんだでにやあかといっくら何でも、ほんで木造、木の文化いうのは何にも無しになる。皆さんわかりますように。石垣は燃えませんかゆうか痛みますけどね。そういう事でございますけど、幸い図面が、詳細な図面が何人か

によって残されておりまして、私達のこの世代です、これを復元してもう1回前の、そのままにしてですね、そのものにして、あと僕からすれば1000年は、木造はできます。法隆寺が1300年、ずっと保たれとる。この間借りた本によると、創建当時のヒノキは65%使われておるという風に出てましたけど、そういう、その1000年後の子ども達に最大のプレゼントを残していく、空前の、チャンスと。今を生きる名古屋の人間にとってという事でございますので、私は自分の、72になりまして年寄りですけど、任務としてねこれ、今を生きる任務として是非本物の復元を木造で進めていきたいと。んで1000年後の子どもさんたちに、大いにええ事やってくれたなあって言ってもらえるようにですね、していきたい、そんな風に、それは僕の考えですけど、違う考えの方もお見えになると思いますんで、どうぞ言ってちょうだいという事でございます。今日ようおいでいただきましてありがとうございます。サンキューベリーマッチ、ありがとう。

② 名古屋城調査研究センター学芸員による講演

司会

はい。それでは、名古屋城調査研究センター学芸員の二橋慶太郎より、「名古屋城石垣石材の特徴について」の講演を行います。

—学芸員による講演—

③ 名古屋市からの説明

司会

ありがとうございました。

続きまして、天守閣木造復元事業の状況についての、名古屋市からの説明に移ります。こちらは15分程の動画をご覧ください。ナレーターは、名古屋おもてなし武将隊、徳川家康です。また、名古屋城総合事務所所長佐治が登壇いたしまして、ナレーションの説明部分をポインターでお示しさせていただきます。ご参照ください。それでは始めます。

名古屋おもてなし武将隊 徳川家康

名古屋おもてなし武将隊、徳川家康である。これから、名古屋市で現在取り組んでおる名古屋城天守閣の整備について説明してまいる。なお、より詳しい資料として別で資料編を用意しておる。参考に見てみるが良い。

名古屋城天守閣の木造復元事業について説明してまいる。現在の天守閣は、戦災による木造天守焼失後、1959年に建てられたものであるが、再建から60年以上が経過し、耐震性能の確保が課題となっておる。名古屋城には、先人の者達の苦勞と努力により豊富な史資料が現存してお

り、名古屋城は唯一、史実に忠実な復元が可能と言われておる。

名古屋城は、天守の巨大さはもちろん、本丸御殿の規模、石垣の量、二之丸庭園の規模を見ても、日の本一の城郭と言えるのじゃ。

近世城郭の最高峰である名古屋城全体を整備していく事で、近世期の名古屋城本丸を実感できる歴史的、文化的空間を再現し、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解の促進、文化面及び観光面における魅力の向上、これらにつなげていきたいと考えておる。

特別史跡名古屋城跡の本質的価値とは、わし徳川家康の命により築城された尾張徳川家の居城であった城跡であり、現存する遺構や、詳細な史資料により、築城期からの変遷をたどる事ができる城跡であり、現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡である事じゃ。このような本質的価値の理解の促進のためにも、天守閣の木造復元事業を進めてまいる所存である。

現天守閣は、戦後復興の象徴であり、博物館としての役割を果たすなど、名古屋の誇りとして今もあり続けておる。木造復元事業を進めるにあたっては、現在の天守閣の記録・記憶を後世に伝えていく事も重要と考えておる。

さて、ここからは、復元事業の進捗状況について説明してまいるでな。まずは、き損事故への対応である。

き損事故とは、令和2年3月2日、重要文化財旧本丸御殿障壁画等を展示収蔵するための施設のオープンに向けて、外構工事を行っていたところ、地中に埋まっていた江戸時代の蔵跡と推定される石列をき損してしまったものである。天守閣木造復元を含めた、名古屋城の全体整備を進めていく中でこの事故が起こり、二度とこのような事が起きぬよう、真摯に反省し、組織を挙げて再発防止に全力で取り組む必要があった。

この事から、有識者や文化庁の指導、助言をもらいながら、再発防止対策を取りまとめ、令和2年6月26日に文化庁へ提出いたした。その後、き損した部分の詳細な調査を経て、現在は、修復作業を行っているところである。今後は、再発防止対策を徹底し、展示収蔵施設のオープンに向けた外構工事を再開する予定である。

次に、文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れである。

平成31年4月19日に、「現天守閣解体の現状変更許可申請書」を文化庁に提出いたし、それに対し、令和元年9月24日に文化庁から指摘事項が示されたのじゃ。その指摘事項において、文化庁から工学的視点に加え、考古学的視点からの調査・検討を求められておる。

不足しておる考古学的な調査として、具体的に、次の4つが示されておる。「内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査」「御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査」「大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討」「天守台石垣背面等の空隙についての調査」。また、この他に、現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討・整理、及び、木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出も求められておる。

現在、この調査や検討・整理を進めておるところで、令和3年4月にその結果を取りまとめたものを文化庁に提出していく予定である。この回答を行う事で、文化庁での議論を進めていただくなど、次のステップへ進む、一定の環境が整うと考えておる。

文化庁からの指摘事項への対応として、令和2年度に実施しておる調査を紹介いたす。

1つ目に本丸内堀の発掘調査についてである。令和元年度に、黄色の範囲で実施した地中レーダー探査で、地中に何かが埋まっている、あるいは、空洞になっている可能性がある範囲がわかったのじゃ。この範囲において、図の緑色で示した、T字の形状で発掘調査を行ってまいる。本丸内堀の発掘調査は、令和2年11月から開始しておる。

2つ目に、御深井丸等地下遺構の発掘調査についてである。仮設構台・栈橋を設置する事とされている御深井丸については、地下遺構の状況を把握し、遺構が集中している箇所には、構台等を設置しないなどの検討が必要である。という文化庁からの指摘事項に対応するための調査である。現天守閣解体工事に伴う仮設構台設置範囲の地下遺構の状況を確認するため、図で赤色の四角で表示された26か所の位置において、トレンチ調査を行ってまいる。また、小天守西側の黄緑色の丸印の位置において、地下遺構の深さを把握するため、ボーリング調査を行ってまいる。この調査は、令和2年12月から調査を開始しておる。

3つ目に、天守台石垣の背面における空隙についての調査である。これまで行ったレーダー探査では、栗石層に締固め密度が低いと考えられる反応が点在しておったが、特に孕み出し部にのみ、強い反応が認められる現況ではなかったのじゃ。調査箇所は、既往レーダー探査測線として赤色の縦方向の実線で示しておる。しかしながら、文化庁からの指摘事項に従い、より精度の高い情報を得るため、今回、大天守台北面の孕み出し部分を中心に、図の黒色の破線において、横方向5本、縦方向3本の追加レーダー探査を行ったのである。この調査は、令和2年9月に開始いたした。現在、調査結果を取りまとめ中である。

続いて、現天守閣の解体理由と木造天守復元に係る計画の検討・整理である。現在、木造天守復元の具体的計画を本丸の基本構想の中で整理をしており、これについても、取りまとめた上で文化庁へ追加情報として提出をしていく予定で進めておる。

以上の調査・検討・整理を行い、指摘事項に対する追加情報の提出を文化庁に行い、復元検討委員会で、審議いただき、最終的に、解体・復元を一体化した現状変更許可を得た上で、現天守閣の解体及び木造天守の復元工事に入っていく事になっておる。復元過程は公開を予定しておる。

次に、木材の調達及び保管状況である。

江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域から大量の木材を調達したという記録が残されておる。木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域を始めとした、木材関係者の協力をいただき、全国各地から調達しておる。平成30年7月の契約締結以降、木材を2071本調達いたした。また、木材は岩手県、岐阜県、愛知県、奈良県、高知県内の、それぞれ、倉庫に保管されて

おる。調達した木材は、直射日光を防ぎ、風通しが良い適切な環境で保管する事により、木材の品質を安全に保つ事ができるのじゃ。木材の表面が変色する事があるが、使用前に、修正製材を行うため、問題とはならぬ事、複数の宮大工の者から聞いておる。

次に、バリアフリーの検討である。

名古屋市は、木造天守の史実に忠実な復元と誰でも登れるためのバリアフリーを両立する事を目指しておる。史実に忠実に復元をしようとした場合、通常のエレベーターが設置できないため、史実に忠実な復元とバリアフリーを両立するための有用な技術を世界中から募り実用化する事といたした。検討状況といたしては、障害者団体の皆には丁寧に説明するとともに、新技術の公募についての意見をいただきながら、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立の実現に向けて検討する対話を進めて来ておる。

次に、機運醸成である。

木造復元事業の機運を高めるため、イベントを行っておる。VR映像で木造天守の内部の体験や、木造復元天守の模型を体験するイベントを商業施設で行ったのじゃ。また、イベントブースや城内などでの寄附や金シャチパートナーからの寄附・支援もいただいております。いただいた寄附は、木造復元事業に活用させてもらっておる。

さて、最後になるが、復元事業の推進の取り組みとして、今後も、文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき、適切に対応し、史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、遺構等に影響を及ぼす事の無いよう、慎重に整備を進めるとともに、市民の皆の、木造復元事業への理解が深まるよう、機運の醸成に努めてまいる所存である。

以上で説明を終了いたします。名古屋城天守閣木造復元事業について、少しでも皆の理解を深めてもらう機会とする事ができていたら幸いです。ありがとさんじゃった。

④ 休憩

司会

ご清聴ありがとうございました。

それでは、準備のため、ステージを整えますので、5分程休憩とさせていただきます。併せて、これ以降、閉会までの会場内のドアを開け、換気をさせていただきます。何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

休憩中のこの場をお借りしてご来場の皆様に催し物のご案内をさせていただきます。来たる3月より、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策への取り組みに対し、市民、事業者の皆様に感謝とエールを伝え、人・まちの元気を取り戻す一助を担うとともに、名古屋城の歴史的価値への理解を深め、魅力を知る機会を創出するため、名古屋城の金のしゃちほこを地上に降ろしご覧いただく、「名古屋城金鯱巡回展」を実施します。是非皆様足をお運びください。

改めまして、皆様に会場内のご案内を申し上げます。感染防止の観点から、会場内でのご飲食

はご遠慮ください。ホワイエにて、飲料のみご利用可能です。加えてマスク等による咳エチケット・手洗いの徹底をお願いします。会話はなるべくお控えいただき、大声も出さないようお願いいたします。受付でお配りした座席記入カードへの座席番号のご記入をお願いします。お掛けになった席の背もたれ上部に列、番号がございます。カードは、説明会終了後に、受付で回収させていただきます。当施設内及び会場内では禁煙となっております。携帯電話、スマートフォンはマナーモードに切り換えていただくか、電源をお切りください。携帯電話、カメラなどを使用した撮影はご遠慮願います。客席通路は非常の際の避難通路となるため、物を置かれませんようお願いいたします。非常の際は、会場の全ての扉を開放します。大きな地震などの発生により、避難が必要な場合は、係員の指示に従っていただき慌てずに避難していただきますようお願いいたします。

⑤ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは、名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。なお、名古屋城調査研究センター学芸員による講演についてのご質問は、この場ではご遠慮いただきますようお願いいたします。天守閣木造復元事業についてのご質問に限らせていただきます。何卒ご容赦ください。最初に、会場の皆様からのご質問にお答えする職員等をご紹介します。

名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の松雄でございます。

名古屋城総合事務所所長の佐治でございます。

保存整備室長の鈴木でございます。

主幹の荒川でございます。

主幹の荒井でございます。

主幹の森本でございます。

調査研究センター副所長の村木でございます。

主幹の上土井でございます。

株式会社竹中工務店でございます。

はい。それでは只今よりご質問をお伺いします。ご発言につきましては、できるだけ多くの方からいただきたいと思いますと考えておりますので、お1人様3分以内で、簡潔にご発言いただきますようお願いいたします。なお、2分30秒になりましたら、私の方からお知らせしますので、残りの30秒にてお考えをまとめていただければと思います。また、他の会場を含めまして、まだご発言をされていない方を優先させていただきたいと考えておりますので、初めてご発言される方から手を挙げていただきたいと思います。手を挙げていただきますと、係の者がマイクをお持ちします。

ご発言はマイクを通して、お願いいたします。それでは、どなたかご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。はい、じゃあ、はい、そちらの前の方。

市民A

ライターの（個人名）と申します。中日新聞の web の方なんかで少しお城の話を書かせていただいております。3つだけ質問させていただきたいと思います。座ったまま失礼します。

まず最初事務方の方へ。民間ではこうした事業を行う場合は、仕入外注費、また人件費といった経費を使う計算をして事業が成り立つかどうかをやると思います。まずこれですとですねもう機材を買ったとかですねそういうのは、仕入でしょうしね。竹中さんへの支払いは外注費ですね。今日の説明会も沢山人が、人件費かかっていると思うんですけど、こういった部分が人件費。こういった部分も含めて、今日まで、事業が始まってからですね、今日まで一体いくらかかったのかという事が大変知りたいです。人件費も入れています。わかれば、それを含めていただきたいんですけど、無ければ、わかる範囲で今日は結構ですし、あとは文書で、お願いしたいと思います。

2点目はですねこれ市長に伺いたいんですが、平成27年の8月24日付で全責任は私が取るのというような、文書が出てるようでございます。

この事業を進めるという風に逆に指示されたという風に読みましたが、もし今度選挙出られず、その場合ですね、この事業はどうなってしまうのか。市長が出られなかったと。それでもし、それまでかかった、今いくらかかったかって聞いていると思うんですけど、そのお金は、これ市長が払われるって事ですか全責任をとるっていう事は。それとも、いわゆる税金、我々の払った税金で、賄われてお終いっていう事になるのか。中止になったらという話ですけどね。

最後に竹中さんに伺います。木造の天守建て替えに関して文化庁がですね、復元つまり整備の復元に関する基準に基づき、規模・構造・形式を忠実に再現するっていうの復元、と定義しています。また復元的定義という、復元的整備という別の言い方をしております、これですと、意匠を一部変更して再現すると、というような事で規定しております。この文化庁に従っていけば、今回造る寸分違わぬお城というのは、復元にあたると思います。復元にあたった場合ですね、現代の基準でいうところの耐震耐火、バリアフリー、こういった問題が、多分性能として得られないと思うんですね。て事はですね今考えられているのはこれ当然考えて、対応されていると思うんですが、これ素人にわかるように、ちょっと教えていただきたい。おそらく復元をしようとしてると思いますけどそれをどうやって対応するのか。

以上3点をお願いします。

司会

はい、ありがとうございます。今のは今まで一体いくら掛かっているんでしょうかという事と、それから、市長が全責任は取ると仰いましたが、選挙出られなかったらどうなるんでしょうか。

経費の事ですかね、お金どうなりますか、っていう事ですね。それから最後ですね、復元っていう風にされると、バリアフリーとか耐震耐火は今の基準に合わないんじゃないの、そこら辺はどういう風に今検討してらっしゃるんでしょうかというご質問でよろしいですね。はい。じゃあまず1番目の経費を。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい、では経費の方のお話でございますけども、始まってから今まで人件費がいくら掛かったのかという所でございますが、

司会

他の物も。人件費以外にも色々。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。28年度から平成元年度までの決算での支出の決算額の合計でございますが、全て合計しますと、69億6800万円余という金額になってございます。

司会

はい。ありがとうございます。はい、では、この後ですね。はい。

河村名古屋市長

それでは僕に対してという事でございますので。とにかく中止には、絶対ならんようにですね、文化庁とも非常に丁寧に、打ち合わせを重ねておりますし、議会でも、議決されてちゃんとやっておりますんで、そういう事です。絶対中止にはなりませんという、物事はあれですけども、ならんようにやっておると。ならんと思います。

(会場から)

市長頑張って。

河村名古屋市長

市長というのは任期というのがありまして、色んな事を申し上げましてもですね、任期毎にあれ一旦切れるんですよ、全部。民主主義というのは、議員もそうですけど、一旦全部辞めるんですあれ実は、何か家業化しておりまして同じ人が出て来るで、継続が当たり前みたいに見えますけど。政治というのは、そこが非常に民主主義の重要なところなんです、これ。王様と違う所は、任期制という辞めますので、だからそれは引き継がれていくという事になると思います。

司会

はい、ありがとうございます。それでは3つ目のですね、竹中工務店さん。

竹中工務店

はい。今仰られた復元整備の件でございます。仰るように文化庁の方からですね、復元基準というような事を出されておまして、当然、規模・構造・形式等がですね、往時、名古屋城でいいますと、やはり歴史的な根拠をですね、決定づけている時代背景の中の資料がきちっとあるかどうかという事をですね、整理をした上で、当然これ文化庁さんとのですね、協議の中で、確認を取っていくという行為になります。復元するですね、歴史的建造物の、当然その場所にですね、きちっと当時から天守があったかどうか、その規模がどうか、構造はどうか、そういった諸々のですね、情報をきちっと整理していくと。冒頭ですね、河村市長からお話があったように、名古屋城っていうのは非常に史実に、いわゆる、史実資料がですね、沢山ございます。で、そういったものを、

市民 A（マイクなし）

要は復元的整備なのか、どちらなんですか。

竹中工務店

これは復元的整備です。

市民 A（マイクなし）

復元的整備なんですか。

竹中工務店

ごめんなさい。復元整備です。はい。

市民 A（マイクなし）

復元っていうのは、言った通り、耐震耐火できないよ。

竹中工務店

いや、そこはですね、復元整備でありまして、当然これ最終的には特定行政庁のですね、建築審査会を経て、安全性・避難・防災・耐震性っていうものをですね、パッケージにして許可をいただくという事になりますから、

市民 A（マイクなし）

それは復元的整備という風に文化庁の規定ではなるのでは。

司会

ちょっとはい。じゃあちょっと補足説明を、名古屋市の方から。

荒井名古屋城総合事務所主幹

すいません、名古屋城総合事務所の荒井といいます。少しちょっと補足させていただきますが、文化庁が定めています、史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準というのが、元々平成 27 年にできたものが、今年度、平成、令和 2 年 4 月 1 日に復元的整備という事に対しまして追記されるような形で出ております。その中に、復元と、あと復元的整備という 2 本がありまして、我々は名古屋城天守閣につきましては、歴史的資料が豊富にあるという事もありますので、復元というものを目指しております。で、ただ文化庁が定めるその基準の中にもですね、ちょっと読み上げさせていただきますと、その一部分なんです、歴史的建造物の構造及び設備、構造及び設置後の管理の観点から、防災上安全を、安全性を確保する事、という事がありますので、我々としては、史実に忠実な復元というのを目指すんですけど、当然そういう安全面、人命の安全というものを、確保しながら、整備をしてくってという事は、文化庁の定めにある通りに従いまして、設置していく事を考えておりますので、当然その中には構造補強であったり、防災上避難、設備、そういったものを設置するという事も含めまして、文化庁と協議をして、この復元を進めていくという風に考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

司会

はい、ありがとうございます。

市民 A（マイクなし）

そうすると、要するに、今度のお城には、避難設備などの補強が入ってるという事、そういう事で良いですか。そう解釈して良い

荒井名古屋城総合事務所主幹

はい、仰る通りでございます。

市民 A（マイクなし）

はい、じゃあ竹中さんもそういう事で良いんですか、

竹中工務店

はい、その通りでございます。

市民 A（マイクなし）

じゃあ史実に忠実寸分違わぬじゃないじゃないですか。

竹中工務店

文化庁さんのですね、確か、基準の中でも、100%ですね、その復元基準に準じているっていう事は、言及されてないと思うんですよ。やはりその時に、やはり文化財の活用という観点から、やはり活用するための安全性とかですね、そういったものもしっかりと確立しながら、復元をですね、実施するようにという風に理解しておりまして、そういう思いで、はい、進めさせていただいております。

司会

はい。ありがとうございます。ありがとうございます。

河村名古屋市長

わしからちょっと言わしてくれる。

司会

はい。

河村名古屋市長

これは冒頭にいいましたように、石の文化と木の文化とやっぱり違うんですね、これ文化庁いつだったかな、まだこの間ですけど、木だと無くなっちゃうんですね、これ。春日大社なんかでも20年毎に全部造り替えです。それでも国宝になっております。じゃあ何でも良いのかいうと、3つ要件を立てておりまして、そのあった、その同じ真上に造る事。それから、資料等が残っている事と。それから3番目が材料についてもできる限り、要するに木ですから燃えちまいますので、400年前の木そのものでは無いんですけど、法隆寺など65%、僕読んだ所では、その、1300年前のもんですけど、やっぱり木の文化というのは朽ちてく訳ですよ。sonだからそういう中の3つの要件を建てればそれは本物が、あくまでギリシャのペルセポリスの丘の所ですね、ありますわねあれ、石の。ああいうものが残っておるのと同じように見做すんだという事を宣言したと。これは奈良ドクトリンという事で、木の文化にとって非常に特徴的な考え方だという事で、ええ考え方だと僕は思いますけど。そういう事です。

司会

はい、ありがとうございます。では次の方、いらっしゃいますか。

森本名古屋城総合事務所主幹

すいません、バリアフリー、

司会

あ、バリアフリー、すいませんちょっとお待ちください、その前にバリアフリーのご説明をさせていただきます。

森本名古屋城総合事務所主幹

復元とバリアフリーの関係ですけれども、やはり文化庁の復元等に関する基準の中では、特にやっぱり歴史、史跡等における歴史的建造物という事で、特段にバリアフリーの事が、文言としては出てきていないところです。これに対してですね、本市としては、今日の資料の資料編ですね、11番の所ですね、バリアフリーの検討という所で、付加設備の方針の概要これ抜粋ですけれども、掲載させていただいております。障害のある人も無い人もできるだけ同じように、観覧できる事が大切ですので、この整備の考え方として、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立とさせていただいております。通常のエレベーター設置しない方針を掲げておりますので、木造復元天守の柱や梁を変更せずに、昇降可能な付加設備を導入する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会

はい、ありがとうございます。では先程、手を挙げてらっしゃる、はい、じゃあそちらの方にお願いします。

市民B

はい。東区から来た（個人名）と申します。まず新型コロナウイルス緊急事態宣言下で、市民向け説明会が強行された事に対して強く抗議いたします。どうして市民向け説明会自体をオンラインで開催できなかったのか、質疑応答も含めたオンライン説明会を、大阪市は実施しましたし、横浜市も開催予定です。質疑応答を含めて、オンラインで行えばもっと多くの市民に安全に木造復元事業の現状を知らせる事ができたのではないかと思います、非常に残念です。昨日の説明会では手が挙がっているにも関わらず、途中で質問が打ち切られました。また、名古屋市がオンライン説明会、と称する動画を見ましたが、一方的に説明するだけで市民の疑問には全く答えていませんでした。さて、当該動画や資料を見ても、現状どうなっているか理解する事ができませんでし

た。特に現状変更許可申請を提出する先の文化庁がどのような意見を持っているかについては全く述べられていませんでした。そこで、市職員が文化庁訪問時の復命書を情報公開請求したところ、2020年11月4日、既に、天守閣整備事業基本構想案を文化庁に示していた事が判明しました。中身を拡大しました。ご覧ください。見えますか。全て中身が黒塗りです。何が書いてあるかさっぱりわかりません。皆さん読めますか。

（会場から）

読めない。

市民B

現天守閣解体申請に係る文化庁からの指摘事項に対する、市の考え方について記載があるようですが全くわかりません。木造復元の意義まで黒塗りとはどういう事でしょうか。唯一、天守の整備方針は木造復元という文字のみ読めます。更に、RC天守閣と木造天守の比較衡量もされていましたがこれも黒塗りです。これでは、市民は何に賛成しているのか何に反対しているのかすらわかりません。黒塗りの理由は、市の機関内部における検討に関する情報のため、とありますが、既に、昨年末までに、木材等、69億6800万円あまり支出済みです。このように市民へ情報を隠しておきながら、市民への機運醸成とは呆れ返ります。名古屋市は新型コロナウイルス対策で大変頑張っていると伺っています。新型コロナウイルス対策のため、行政にしかできない事に対して予算をつけていただきたいのですが、まさに、不要不急の名古屋城木造復元事業に対し、

司会

あと30秒をお願いします。

市民B

市民への説明も全く行わずに、今やるべきとは思えません。はい質問は2つ。1つ目、オンラインでの質疑応答の配信の予定について伺いいたします。2つ目、基本構想案を市民に公開して議論するつもりはありますか伺います。以上2点お願いします。

司会

はい。ありがとうございます。では、1つ目ですね、オンライン質疑応答。はい、お願いします。

上土井名古屋城総合事務所主幹

それではですね、まずこの状況下で説明会を開催させていただいたといったような所の考え方からまず説明をさせていただきたいと思います。私どもといたしましても、今非常事態宣言ので

すね、対象区域となっており、市民の皆様も不安を抱えて大変な状況である、という事は、認識しております。一方ですね、名古屋城木造天守閣復元事業、こちらですね、大きな予算とですね、時間を要する本市のビッグプロジェクトでございまして、この説明会は、その進捗状況など、直接、市民の皆様説明できる大切な機会、場であるといった、そういった認識でおります。私どもといたしましては、この説明会がですね、まず、飲食に繋がる人の流れを促すものではないという事、あと催し物を開催にあたっての、目安を超えていないという事、あとガイドラインに基づく感染症対策を実施する事、あと、ご不便、ご不便をお掛けいたしますが、会場数を縮小させていただき、外出に不安を感じる方のために、オンライン説明会といったような事を実施するといった事で総合的に判断いたしまして開催をさせていただく事とさせていただいております。

で、オンラインのですね質疑といったような事でもございましたが、今回はですね、説明資料を流させていただきまして、そちらの方にですね、アンケートフォームも設けておりますので、観ていただいて、アンケートの方でご意見ご質問あれば、こちらの方にいただいてそちらに回答させていただくといったような形で行わせていただきたいというように考えております。よろしく願いいたします。

市民B（マイクなし）

質疑応答の配信予定はありますか。

上土井名古屋城総合事務所主幹

現在はございません。

司会

はい、ありがとうございます。では2つ目のですね、基本構想案の公開ですかね、それについてお願いします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい、情報公開請求いただきました、文化庁との打ち合わせに使用した資料については、現在の段階では検討中の段階のものでございまして、今後も十分な意見交換を必要とするものであります。公開を前提とされる場合には、今後の率直な意見交換ですとか、多様で自由な議論の妨げになる事も十分に考えられますので、情報公開条例に基づき、資料の一部を非公開とさせていただきました。内容の精査検討進めまして、必要な時期が来れば、地元の有識者会議、これ公開でやってございますので、そこでご議論いただく予定にしておりますので、ご理解いただきたいと思います。

市民 B（マイクなし）

市民に公開するのは。

荒川名古屋城総合事務所主幹

その有識者会議の資料等については、あと議事録についてもホームページで公開しておりますので、それを以て公開させていただきたいと考えております。

（会場から）

市民向けには配布していないじゃないの、資料を。

荒川名古屋城総合事務所主幹

市民向けといいます、ホームページの方で出させていただいております。

（会場から）

資料自体はないでしょ。

荒川名古屋城総合事務所主幹

もちろん資料も出させていただいております。

（会場から）

全てではないですよ。

司会

じゃあちょっとお待ちくださいね。はい、じゃあ。

佐治名古屋城総合事務所所長

ちょっと補足させていただきます。文化庁からの指摘事項につきましては、今私ども、必ず有識者会議、まず最初に全体整備検討会議にかけて必要があれば各部会に下ろしてまた全体会議に戻して決定するというそういうプロセスを踏んでおります。ですので、そこに掛けるまではまだ事前にその相談の段階でございますけど、そこに掛けれる段階で、全て公開をしております。で、有識者会議の資料につきましても、会議開催後の2、3日後には、きちんと市のウェブサイトの方に資料が公開しておりますので、ご理解いただければと考えております。

司会

はい。ありがとうございます。では他の方、いらっしゃいますか。じゃあそちらの前の列の後ろの方、後ろの方の方の、はい。はい。そちらのグレーのジャケットはい、着た方。

市民 C

南区の（個人名）といいます。昨日も質問させていただきました。

司会

昨日、あれ、すいません。

市民 C

へ、

司会

いえいえ、どうぞ、はい。

市民 C

文化庁の質問というか、なんていうたかね、なんて何とか言ったね。文化庁からの、指摘事項、を踏まえて、名古屋市が今検討してますっていう事はわかったんだけど、でそん中で、発掘調査とか、いう事もあるんだけど、それでちょっとその5年、または3年前からこの名古屋城の木造の復元っていうか、とても怪しくなってますが、6ページの資料の6ですかね。基本設計その他業務の内容って書いてあるんですが、基本設計業務は終わってるわけですよね、お金も払われてますし。

司会

えっと、市民向け説明会の資料冊子の6ですね。

市民 C

はい。資料の6です。基本設計業務は終わってますね。で、実施設計の中で、何かやってできてないところは、修正していくというような事を仰ってたような気がしますけども、どこまでそれができてるの、それからもう1つ名古屋市の、じゃなくて文化庁からの指摘事項に対して、検討していく、木造建築木造改築だけが目的なのかどうかっていう事について、検討すると有識者会議とも、話すっていうけど、その有識者会議では何も議題になってないよね。有識者会議なんかの資料があるけど、議題には出てないよね、この間。去年やってる石垣部会でも天守閣部会

でも、そういう話は出てないでしょ。全然他の話でしょ。御殿、御殿どうするかとか庭園どうするかっていう話でしょ。だからお城の設計そのものの話は何も出てないんですよ。でやるやるやるやるつつてるけど、で、片っぽで、全体の姿が見えない。そして市民オンブズマンのあの資料請求でも黒塗りだと、で今協議中だから出せませんと仰ってます。一貫して名古屋市は、どういうお城ができるのかって一番最初にビデオを見せてもらっただけですよね。でもうず一つとできない。その事をどうやって説明していただけるのか、今お城の設計はどこまでどうなってるのか。それを明確にしていきたい。このままだと、どうなってくんかわからない。お金だけは無駄に使われていく。それから人材の無駄に使われる。沢山の観光文化交流局の有能なスタッフが、時間とお金を使って、ねえ、無駄になります。その辺を明確にしていきたいと思います。

司会

はい。ありがとうございます。基本設計業務がどこまで進んでいるかっていうご質問で良いですか。はい。

市民 C（マイクなし）

実施設計業務も含めて、

司会

実施設計業務も含めてどんどこまで進めますか、っていう事ですね。はい。

市民 C（マイクなし）

基本設計業務は終わってるって記載してるんですよ。基本設計すら発表されていないわけですよ。

司会

はい、じゃあ、その辺を。はい。よろしいですか。はい。

荒井名古屋城総合事務所主幹

ご質問ありがとうございます。設計業務という事で、ちょっと簡単に説明させていただきますと、まず基本設計は平成 29 年 5 月に竹中工務店と基本協定を結びました。そこと、同日、基本設計業務の契約をしております。基本設計業務が平成 29 年度に終えております。平成 30 年度からは、実施設計を始めておりまして、今も続けている状況でございます。で基本設計はですね、基本的にはその実施設計前に、の段階でやる業務で、基本的な計画を策定するというもので行っております。でそれ以降実施設計につきましては、実際に工事するための詳細な設計あるいは、実

施、基本設計の成果に、を元に作成していくというものでございます。で、今お話ありましたように、平成 29 年 30 年 31 年、今年令和 2 年という事になりますが、その間平成 29 年 30 年度ぐらいに関しては、天守閣部会だとか、あるいは全体整備検討会議で、その仕様について、有識者にお諮りしてるのは、かなりの数をこなしてはおります。でただ、今現在、その部分がですね、一部継続して、調査、あるいは、仕様決めるような作業は続けておりますが、まだ有識者にお諮りする段階ではないという状況ではございます。なので、そういったところで実施設計は続いているという事です。であと、実施設計に一番大きなところとしまして基本、基礎構造の検討というのを、この昨年 9 月 10 月にですね、全体整備検討会議というもののの中で、調整会議というものを開いて検討を進めていくというような事で、方針を決めていただく、というような事ができましたので、今後、基礎構造について、より詳細に検討を進めていくという事をしていく、でそれを合わせまして実施設計が当然、完成していくという事になるかなと。当然バリアフリーの関係もありますし、防災設備、構造補強、そういったものも、より詳細に、詰めていくというのが今後、行くかなという、進めていくかなという事で、今現在進めている状況でございます。

司会

はい、ありがとうございます。

市民 C（マイクなし）

それでね、6 ページに文化庁への対応という事で、検討・整理というのがあって、現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討・整理とありますね、

市民 C

検討とか整理をすると、木造天守復元木造天守復元のためか、地震対策なのか、それを検討・整理するって書いてあるんだけど、いつどこでそれが行われているか。でそうすると、もう一遍その基本設計から見直す必要が出てくるのかなっていう気がするんですよ。基本設計どうなったんのっていう。で基本設計ぐらいは、もう今は発表されても良いのではないかと思うけど、未だに出ない。おかしいと思うんだけどね。木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出っていうのは、一体どういう事なんですかね。文化庁の回答に、この答える形で文化庁と擦り合わせをするっていう事なんですか。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。お尋ねのありました現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかという、こちらにつきましては、昨日もちよっとお答えさせていただいたんですけれども、現天守閣につきましては、老朽化ですとか、耐震性能の不足もありますし、現在の機能である博物館の機

能としても、現在の博物館としては不足しているといったところも含めまして、名古屋市としては木造復元で考えております。ですので、現天守解体という事につきます理由については、木造天守の復元という事になってまいります。で木造天守復元という事になってまいりますので、その具体的な内容の追加提出につきましては、今これを基本構想というような形で、先程あの、ご質問のありました、情報公開請求を受けた、そういった資料の中で整理をしておりますので、こちらにつきましてはまた時期が来れば、有識者会議の方に諮っていきたいという風に考えております。

司会

はい。えっとごめんなさいすいません。ごめんなさい。あの、この話どんどん進んでいくとですね他の方がもしかしてご質問があったりすると、他の方にご質問の時間が無くなっちゃうんで、こんで、ちょっと打ち出していただいても良いですかね。で、私が不手際で、昨日ご質問された方にまた当てちゃってちょっと申しわけなかったなって思ってるんですが、できれば今日初めて質問するっていう方に手を挙げていただけると、とっても助かります。すいません。お願いします。じゃあ。初めてですね。はい。じゃあお願いします。

市民D

先程ですね既に購入された材木が 2000 何本あると仰ったんですが、この先いつそれが利用されるか、正直なところ不明だと思うんですね、でそれまでの、保管費用、材木の保管費用、これは、当初の全ての計、予算が確か 505 億だと聞いてたと思うんですが、その中に、含まれているかどうかっていうのがまず第 1 点。それから、北側の孕み出し部分の、あの部分の改修は必要なのかどうかという事。それから順番として石垣の、改修が先なのか、上の木造天守閣の復元が先なのかという順番の問題。それから、き損箇所のあった、展示施設のオープンはいつを予定されているのかという事。それから、更には、き損事故が発生したその後先程もありましたが、真摯に反省して二度と云々という事ありましたが、昨年秋の新聞見て各種の新聞見ておきますと、また、天守閣から石垣が落下して、その報告が文化庁に遅れて、先生方からまたきつく怒られたっていう記事が載っておりました。市の職員さんは、特に所長さん始め、皆さんが、その事本当に真摯に反省してるかっていう事自体が疑問に思うわけですよ。そういう事度重なるとね、やっぱしそれは、失礼ですけど職員さんの、まず基本的なモラルの問題だったもんね。それについてお伺いをいたします。

それから、跳ね出し架構、天守閣が載ってる下の石垣の地下の部分です、あの部分なんです、あの部分について、石垣部会の先生方から詳細に云々っていうね、もう 1 回調査せっていう話を、が出てるっていう話を新聞報道で読みました。ところがあの部分は、昭和 34 年に、今の天守閣が建った時に既に改変されてるんですよ。改変されてるんだよね。昔のものじゃないんですよ。

ある意味、ある意味、その、昔のものじゃないから、名古屋市がやろうとしているもの、ものをやる事をやれば良いはずなんです、先生方は、どうしてそこをもう 1 度調査せいと仰ってるかちょっと甚だ疑問に思いますので、それだけです。以上です。

司会

はい。ありがとうございます。すいませんちょっと聞き取れないっていうか、あんまりにも沢山あって、ごめんなさい。もう 1 回確認させてください。1 つ目が、木材の保管費用っていうのは、当初の予算に含まれているかという事ですね。それから 2 つ目が北側の孕み出しの修復

市民 D（マイクなし）

が必要なかどうか

司会

が必要なのか。はい。それで 3 つ目が、ちょっとここが何か、

市民 D（マイクなし）

必要だった場合、石垣の改修が先なのか、木造復元が先なのか。

司会

はい。わかりました。ありがとうございます。

でそれから切り出しの部分の展示とそれから、その反省はどうなのっていうのと、ですね。それからもう 1 つ、何か天守閣の何か順番と仰っていましたよね。それはもうこちらでわかってるそうです。私がわかってなかったですね。はい。あともう 1 個跳ね出しのところですね。はい。じゃあ最初に、

荒井名古屋城総合事務所主幹

はい。木材の、今 2000 本近く、もう調達しているものに対して、保管料がかかるという事なんです、元々ですね、2020 年 12 月に木造復元完成させるという事を、含めて、木材を調達をし始めたところでもあります。元々の工程にそれは沿って調達しないと、調達できなくなる可能性があるという事で調達をしてきているんですけど、その保管料は今現在かかっております。でただ、木材はですね、今我々が使おうとしてる木材は非常に径も大きく長いという事もあって、乾燥するのに時間がかかる。そういったところもありまして、元々ある程度の数、数字、量の木材を機械乾燥しようとしていたんですよ。当然それにも、費用がかかるという状況ではございます。で今回、保管期間が延びるという事がある、その期間をですね、自然乾燥の期間にあてがう事が

できる。自然乾燥ってのは、保管費用はかかるんですけど、機械乾燥費っていうのが無くなりますので、そういったところで、費用が負担が増えてる事はありません。なので、今現在は 505 億円の中で収まってる。元々の木材の契約の金額の中で収まっております。ただ、それもやっぱり限界というか、機械乾燥費っていうのも、元々見込んである金額が限界がありますので、それよりやっぱりあのオーバーしちゃうっていうところが当然出てきますので、その部分につきましては、今竹中工務店とも、協議をしておりますけど、できるだけ追加にならないような、工夫をしていきたいという風に考えている状況でございます。

司会

はい、ありがとうございます。それと北側の、はい。

村木名古屋城調査研究センター副所長

はい、続きまして北側の天守台石垣の北側の孕み出しについてのご質問にお答えさせていただきます。先程、説明の中でございましたけれども、北側の孕み出しにつきましてはまだこれまでやった調査だけでは、十分な検討が判断ができないというようなご指摘もいただいておりますので、今回、北側の孕み出しにつきまして追加の調査をしたところでございます。ですのでそういった追加の調査の結果を私ども取りまとめをいたしまして、また有識者にお諮りした上で、そちらの、がどういった措置が必要なのかというところを検討してまいりたいという風に考えておるところでございます。でこちらにつきましては、現状の把握に、把握をした上でですね、どうし、どういった対応していくかというところを決めてまいりたいという風に考えておりますので、現在の時点で、そこを積み替えていうっていうような作業が必要であるのかどうかというのはまだ判断ができておらないところでございます。でそういった作業の内容によりまして、天守の整備と前後というところはまだ検討が必要かなという風に考えておるところでございます。当初の計画としては、天守、石垣という順序という計画ではありましたが、内容によっては、天守の工事に先立って、応急的なといいますか、継続的に対応していくという必要があろうかという風には考えておるところでございます。で併せまして、ちょっと今、先程ご質問いただいたその天守のレーダー探査しております時に、石垣が落下した、でありますとか、あるいはモルタル片が落下したといったところで、注意が不十分ではなかったかというようなご指摘もいただきました。その件につきましては、私どもといたしましては 6 月に定めました再発防止対策に則って対応しておったところでございますけれども、まずそういった中で起きた事故としては、不可抗力として起きたという認識ではございますけれども、そのき損届提出すると決めて出す、出す準備をしたものが、所定の時間内に出せなかったというところ、そちらは単純に端的に私どもの事務上の処理が不適切であったというところで、大変反省しておるところでございます。申し訳ありませんでした。

司会

はい、ありがとうございます。はい。

鈴木名古屋城総合事務所保存整備室長

はい。保存整備室長の鈴木でございます。私ども保存整備室が発注しました、整備工事の途中でですね、江戸時代の米蔵の基礎にあたる部分の、石の列を破損してしまうと、き損してしまうというような、このような事故をですね、私ども管理団体自らが引き起こしてしまったと。このような事に関しましては、誠に申し訳なく思っている次第でございます。このような事故を二度と起こさないために、事故後には徹底的に原因を分析いたしまして、再発を防止するための対策を策定し、昨年の6月の26日に文化庁の方へ提出をさせていただきました。今後ですね、この対策を、整備に携わる職員全員が徹底しまして、史跡保護に対する意識を一層高めて、慎重にも慎重に整備事業を行ってまいりよう真摯に努めてまいろうという風に考えております。お尋ねをいただきました、この展示収蔵施設の開館についてでございますが、現在き損してしまいました石の列の修復も進んでおりまして、併せて、文化庁の方から、工事再開の許可をいただきましたものですから、今後工事を再開いたしまして、春頃を目途には、オープンできる状態には、設備的にはオープンできる状態にはさせていただきたいと、1日も早く皆様にご覧いただきたいという風には考えておりますが、具体的なオープンの日については、まだ定まっておりますので、そこはご容赦いただきたいと思います。以上でございます。

司会

はい。ありがとうございます。あと最後何か跳ね出し、の事ですね。それは。スライドが、出るそうです。

荒井名古屋城総合事務所主幹

跳ね出し架構と、我々がお話させていただいてる事なんですが、これは実は平成27年に天守閣整備事業のプロポーザル、いわゆる企画提案という事で、技術提案書を竹中工務店の方からいただいております。で、この前の方にスライドを並べさせていただきましたが、これが左側が今の現天守閣の基礎の部分の断面図ですね。外部の石垣があって、穴蔵部分、地下部分は穴蔵部分といいますが、中の穴蔵部分が、の石垣っていうのがあります。で今RCの、SRCの構造なので、石垣に荷重が掛かってないというような形がそうなんですが、片や右側ですね、これがいわゆる赤い部分が、跳ね出し基礎という風に、我々が呼んでるものでして、この基礎がですね、実はこの天守台の石垣を構成してるものっていうのは、表面の石垣、外部の石垣、穴蔵の石垣だけではなく、この中には栗石というのがありまして、更に中には盛り土、いうのがあります。それを全体を一体

で石垣というものでして、いわゆる天守台を構成してるものになります。でその部分に、この跳ね出しの基礎を入れるという事で、実はこの跳ね出しの基礎を入れる事によって、中はですね、木造復元自体は史実に忠実に復元をしたいという事を目的とした、基礎ではありますので、それが技術提案の中に載っているという事であります。ただ、石垣部会の方から、あるいは他の有識者からも、石垣の中に、いわゆる天守台石垣を構成する中に、この構造体を入れるという事、でこれが実は先程仰ったように、戦後、現天守を再建する時に、かなりこの石垣も触っておるのは事実です。で、ただ、根石部分要は地下部分は触ってるかどうか分からないとか、あるいは、本当に全部触ったのかどうかという事も含めてしっかり調査をしないといけない。ましてや、この石垣先程説明させていただきましたように、石垣表面の石だけじゃなく、中の栗石盛り土そういったものも含めて、大事なものであるという事を言われておりますので、その中にこういう基礎を入れる事自体が、簡単に良いよといえるものじゃありませんよねと、いう事でしっかり調査をしてくださいという事をいただいております。併せて文化庁からも、この中の遺構を、もし元々江戸時代から残ってるものがあるとするなら、そこはやっぱり残すという事を前提として考えてくださいというふうに、言われておりますので、なのでやっぱりしっかり調査をした上で、我々も次の検討に入らなきゃいけないという事です。で更にこれを入れるという事になりますとこの穴蔵の石垣を全部外すっていう事にもなりますので、併せてここ中に物を入れるという事と、穴蔵石垣を全部取り外すという事は、やっぱり今すぐ良いよとは言えないので、しっかり調査をしてくださいと、いう風に言われているという事でございます。なので我々は今後、そういった調査を今までしてきた調査、あるいは今後する調査、それを踏まえまして、この基礎構造の検討を有識者に相談しながら、あるいは文化庁に指導を仰ぎながら、決めていきたいという風に考えているという状況でございます。

司会

はい、ありがとうございます。

(会場から)

基本設計に跳ね出し架構は入っていたんですか。

荒井名古屋城総合事務所主幹

基本設計の中では、どういった基礎を考えていくかっていう方針を固めるところまでなので、この方法も含めて、あるいは他の方法はどうかっていう事は、考えております。で今現在、実施設計をやっております。実施設計の中では、そういったところ、詳細に詰めなきゃいけないという事で、その部分については実施設計はまだ、業務として中に入れておりません。

司会

はい、ありがとうございます。

（会場から）

他の方法って仰ったけど、跳ね出し架構以外の他の方法って何ですか。

司会

これ、もうちょっとお話されます。じゃあ最後、

荒井名古屋城総合事務所主幹

具体的にですね、決まっていらないので、

（会場から）

無いんでしょ

荒井名古屋城総合事務所主幹

ないので、

（会場から）

なんで公開しないんですかその資料は。

荒井名古屋城総合事務所主幹

それは、検討中の資料であるので、それを出す事はなかなかできないという事です。

（会場から）

基本設計は完成したんですよ。

荒井名古屋城総合事務所主幹

完成しております。

（会場から）

完成している、基本設計が、

司会

まだ私ご指名してないですけど良いですか。すいません。それで、あのですね、もうお時間がどんどん近づいてき、終了の時間が近づいて来てしまったんですけども、少し延長をさせていただきたくて、最後にお1人だけですね何かご質問ありましたら、この会場で初めてだよっていう方がいらっしゃれば、お願いしたいなあと思うんですけども、いかがでしょうか。

いらっしゃらないですかね。では、じゃあ時間内に終われそうですので。はい。ここまでとさせていただきますと思います。ではですね多くのご質問いただきまして、本日はありがとうございました。閉会の時間がまいりましたので、最後に河村市長より一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい。それでは、ありがとうございました。コロナの中でまた雨も降っておりますので是非、お帰りは気づけていただいて、文化庁の方からとにかく国宝1号であった名古屋城は、あとコンクリートのお城って沢山あってですね、それはどうするかという大きな問題なんです。そのナンバーワンの課題というかナンバーワンにあるのが何か、最大の、国宝1号であった名古屋城になったという事だもんで、丁寧な上に丁寧にお願いしますよという事は言われておりました。そういう事に従ってやってきます。とにかく、世紀の大建設ですからこれは、多分法隆寺以降の木造建築物では最高の建築物だという風にある学者さんが言っておられた建物。偶々といっちゃなんですけど、今、この世に生きとる私達名古屋の人間が、どうするかという、大変重いというか、重要なミッションを、1000年後の子どもさんたちにいただいております。そういう気持ちで一つ、何分にも精一杯やってきますのでよろしゅうお願いしたいと思います。そんな事で今日はどうもありがとうございました。サンキューベリーマッチと。ありがとう。

司会

ありがとうございました。

以上をもちまして、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を終了いたします。それで先程ご案内しましたように、混雑を避けるためにですね、退場の事をご案内しますので、お席でお待ちください。その間にですね、座席記入カード、アンケート用紙など、お書きいただければと思います。それは出口で回収いたします。また他にご質問がある場合は、アンケート用紙にご記入ください。はい。

（会場から）

是非アンケートの質疑を公開してください。そして、前回の、保存活用計画の、パブリックコメントも、

司会

はい、

(会場から)

再公開してください。

司会

はい。では、

(会場から)

隠ぺいをしないでください。市民の意見を、市長、よろしくお願いします。

司会

はい、では皆様お忘れ物ないよう、お気をつけて、よろしいですかもう皆さんにご案内したい
んではい、お忘れ物ないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

（３）説明会（会場：西文化小劇場）の記録

① 開会

司会

お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。只今より、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を開会いたします。私は本日の司会を務めます浅野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

始めに、本日の市民向け説明会の進行についてご説明いたします。まず、名古屋城調査研究センターの学芸員による、名古屋城についての講演を30分程行います。その後、名古屋城天守閣木造復元事業の状況について、15分程の動画をご覧いただき、休憩を挟みまして、会場の皆様から、名古屋城天守閣木造復元事業についてのご質問などをお伺いいたします。ご質問のお時間には限りがございますので、進行にご協力くださいますよう、お願いいたします。説明会の終了は午後3時10分となっております。

次に、本日お配りした資料についてご案内をいたします。受付で、本日の説明会冊子、資料冊子、座席記入カード、アンケート用紙をお配りしております。また、説明内容はこちらのスクリーンで映写いたしますが、お手元の資料でも、ご確認ください。また、座席記入カードと、アンケート用紙につきましては、お帰りの際に、出口で回収いたします。開場し、説明会終了後の退場なんですけど、こちらは混雑緩和のため、会場の前半部分と後半部分と分けまして、後ろの方から、退場をご案内させていただきます。

なお、報道機関による取材が入っている他、記録写真の撮影を行っておりますので、ご了承くださいませようお願いいたします。

始めに、開会にあたりまして、名古屋市長、河村たかしより一言ご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい。それでは。コロナの時でございますけども、また日曜日でございますが、ようおいでいただきましてありがとうございます。まあ一言だけいう事で、この名古屋のお城というのは、まず1つは国宝1号だったという事ですね、姫路城が1号のように見えますけど姫路城は2号です。それで空襲で残念ながら、昭和20年5月14日か、午前9時か10時頃に焼けてしまったという事でございます。それを木造で復元しようという事で、これは図面とかですね、色々先人がものすごい資料を残しとってくれてましてですね、今んとこ世界中で、こんだけの木造建築物をですね、図面に従って、復元するというのは、この名古屋ただ1つと、いう事になると思います。んで文化庁からも、そういう事ですんで、皆さんご承知のように例えば広島城、これは原爆で破壊されました。10いくつじゃなかったかな、戦争中にやっぱり名古屋城のように、破壊されて燃えたりして、で、またそれを、みんなコンクリートで造ったわけですよその時代っていうのは。丁度寿命が来ますんでみんなほとんど。どうしようかという。その第1号が、何とこ

の皆さんの住んでおられる名古屋のお城で、国宝1号で、一番ええやつだという可他から怒られるかわかりませんが、皆さんのこの名古屋の、その復元の第1号になったという事でございますので、私は是非皆さんも非常に、あと1000年わよ、大事にしよみやあと。法隆寺が1300年、これはあるんですあれ。建ててすぐ一遍、色んな議論がありましたけれども色々読んでますけどやっぱり焼けたようですねあれ、建ててすぐ。だから大体は1400年前に建てて、今のは1300年ぐらい、ほんでも持っという事ですけど、書いた物読みますと、大体今の材木の65%が創建当時のヒノキだという事でございまして、まあ立派なもんだで、是非皆さんで、もう1回これ残してですね、今度は1000年、法隆寺1300年ですから。戦争があるといかんよ、戦争があるといけません、戦争があるといけませんけど、1000年みんなで大事にして、1000年後の子どもさんたちが、ええもんつくってくれたなこの時代の人達がと、どれくらいプレゼントだわと、いう風に持って行きてやあと考えております。50年ぐらいで国宝になると思いますけどね、僕は。わしが生きとる内にはちょっと無理かわかりませんが。そんなところでございますので、今日はどうぞ色々なご意見があると思いますが、色々お寄せください。以上でございます。ありがとうございました。

② 名古屋城調査研究センター学芸員による講演

司会

それでは、名古屋城調査研究センター学芸員の堀内亮介より、「名古屋城天守の宝暦大修理について」と題して講演を行います。

—学芸員による講演—

③ 名古屋市からの説明

司会

ありがとうございました。

続きまして、天守閣木造復元事業についての状況について、名古屋市からの説明に移ります。こちらは、15分程の動画をご覧ください。ナレーターは、名古屋おもてなし武将隊徳川家康です。また、名古屋城総合事務所所長佐治が登壇しまして、ナレーションの説明部分を、ポインターでお示しさせていただきます。ご参照ください。それでは、始めます。

名古屋おもてなし武将隊 徳川家康

名古屋おもてなし武将隊、徳川家康である。これから、名古屋市で現在取り組んでおる名古屋城天守閣の整備について説明してまいる。なお、より詳しい資料として別で資料編を用意しておる。参考に見てみるが良い。

名古屋城天守閣の木造復元事業について説明してまいる。現在の天守閣は、戦災による木造天守焼失後、1959年に建てられたものであるが、再建から60年以上が経過し、耐震性能の確保が課題となっておる。名古屋城には、先人の者達の苦労と努力により豊富な史資料が現存しており、名古屋城は唯一、史実に忠実な復元が可能と言われておる。

名古屋城は、天守の巨大さはもちろん、本丸御殿の規模、石垣の量、二之丸庭園の規模を見ても、日の本一の城郭と言えるのじゃ。

近世城郭の最高峰である名古屋城全体を整備していく事で、近世期の名古屋城本丸を実感できる歴史的、文化的空間を再現し、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解の促進、文化面及び観光面における魅力の向上、これらにつなげていきたいと考えておる。

特別史跡名古屋城跡の本質的価値とは、わし徳川家康の命により築城された尾張徳川家の居城であった城跡であり、現存する遺構や、詳細な史資料により、築城期からの変遷をたどる事ができる城跡であり、現在の名古屋へと続く都市形成のきっかけとなった城跡である事じゃ。このような本質的価値の理解の促進のためにも、天守閣の木造復元事業を進めてまいる所存である。

現天守閣は、戦後復興の象徴であり、博物館としての役割を果たすなど、名古屋の誇りとして今もあり続けておる。木造復元事業を進めるにあたっては、現在の天守閣の記録・記憶を後世に伝えていく事も重要と考えておる。

さて、ここからは、復元事業の進捗状況について説明してまいるでな。まずは、き損事故への対応である。

き損事故とは、令和2年3月2日、重要文化財旧本丸御殿障壁画等を展示収蔵するための施設のオープンに向けて、外構工事を行っていたところ、地中に埋まっていた江戸時代の蔵跡と推定される石列をき損してしまったものである。天守閣木造復元を含めた、名古屋城の全体整備を進めていく中でこの事故が起こり、二度とこのような事が起きぬよう、真摯に反省し、組織を挙げて再発防止に全力で取り組む必要があった。

このことから、有識者や文化庁の指導、助言をもらいながら、再発防止対策を取りまとめ、令和2年6月26日に文化庁へ提出いたした。その後、き損した部分の詳細な調査を経て、現在は、修復作業を行っているところである。今後は、再発防止対策を徹底し、展示収蔵施設のオープンに向けた外構工事を再開する予定である。

次に、文化庁からの指摘事項への対応と今後の流れである。

平成31年4月19日に、「現天守閣解体の現状変更許可申請書」を文化庁に提出いたし、それに対し、令和元年9月24日に文化庁から指摘事項が示されたのじゃ。その指摘事項において、文化庁から工学的視点に加え、考古学的視点からの調査・検討を求められておる。

不足しておる考古学的な調査として、具体的に、次の4つが示されておる。「内堀の地下遺構の把握、御深井丸側内堀石垣の現況及び安定性を確認するための追加発掘調査」「御深井丸の地下遺構把握のための発掘調査」「大天守台北面石垣の孕み出しについての調査・検討」「天守台石

垣背面等の空隙についての調査」。また、この他に、現天守閣解体の理由が耐震対策のみか、木造天守復元のためかの検討・整理、及び、木造天守復元に係る計画の具体的内容の追加提出も求められておる。

現在、この調査や検討・整理を進めておるところで、令和3年4月にその結果を取りまとめたものを文化庁に提出していく予定である。この回答を行う事で、文化庁での議論を進めていただくなど、次のステップへ進む、一定の環境が整うと考えておる。

文化庁からの指摘事項への対応として、令和2年度に実施しておる調査を紹介いたす。

1つ目に本丸内堀の発掘調査についてである。令和元年度に、黄色の範囲で実施した地中レーダー探査で、地中に何かが埋まっている、あるいは、空洞になっている可能性がある範囲がわかったのじゃ。この範囲において、図の緑色で示した、T字の形状で発掘調査を行ってまいる。本丸内堀の発掘調査は、令和2年11月から開始しておる。

2つ目に、御深井丸等地下遺構の発掘調査についてである。仮設構台・栈橋を設置する事とされている御深井丸については、地下遺構の状況を把握し、遺構が集中している箇所には、構台等を設置しないなどの検討が必要である。という文化庁からの指摘事項に対応するための調査である。現天守閣解体工事に伴う仮設構台設置範囲の地下遺構の状況を確認するため、図で赤色の四角で表示された26か所の位置において、トレンチ調査を行ってまいる。また、小天守西側の黄緑色の丸印の位置において、地下遺構の深さを把握するため、ボーリング調査を行ってまいる。この調査は、令和2年12月から調査を開始しておる。

3つ目に、天守台石垣の背面における空隙についての調査である。これまで行ったレーダー探査では、栗石層に締固め密度が低いと考えられる反応が点在しておったが、特に孕み出し部のみ、強い反応が認められる現況ではなかったのじゃ。調査箇所は、既往レーダー探査測線として赤色の縦方向の実線で示しておる。しかしながら、文化庁からの指摘事項に従い、より精度の高い情報を得るため、今回、大天守台北面の孕み出し部分を中心に、図の黒色の破線において、横方向5本、縦方向3本の追加レーダー探査を行ったのである。この調査は、令和2年9月に開始いたした。現在、調査結果を取りまとめ中である。

続いて、現天守閣の解体理由と木造天守復元に係る計画の検討・整理である。現在、木造天守復元の具体的計画を本丸の基本構想の中で整理をしており、これについても、取りまとめた上で文化庁へ追加情報として提出をしていく予定で進めておる。

以上の調査・検討・整理を行い、指摘事項に対する追加情報の提出を文化庁に行い、復元検討委員会で、審議いただき、最終的に、解体・復元を一体化した現状変更許可を得た上で、現天守閣の解体及び木造天守の復元工事に入っていく事になっておる。復元過程は公開を予定しておる。

次に、木材の調達及び保管状況である。

江戸時代、名古屋城を築城するため、裏木曽地域から大量の木材を調達したという記録が残さ

れておる。木造天守復元に使用する木材は、裏木曽地域を始めとした、木材関係者の協力をいただき、全国各地から調達しておる。平成 30 年 7 月の契約締結以降、木材を 2071 本調達した。また、木材は岩手県、岐阜県、愛知県、奈良県、高知県内の、それぞれ、倉庫に保管されておる。調達した木材は、直射日光を防ぎ、風通しが良い適切な環境で保管する事により、木材の品質を安全に保つ事ができるのじゃ。木材の表面が変色する事があるが、使用前に、修正製材を行うため、問題とはならぬ事、複数の宮大工の者から聞いておる。

次に、バリアフリーの検討である。

名古屋市は、木造天守の史実に忠実な復元と誰でも登れるためのバリアフリーを両立する事を目指しておる。史実に忠実に復元をしようとした場合、通常のエレベーターが設置できないため、史実に忠実な復元とバリアフリーを両立するための有用な技術を世界中から募り実用化する事といたした。検討状況といたしては、障害者団体の皆には丁寧に説明するとともに、新技術の公募についての意見をいただきながら、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立の実現に向けて検討する対話を進めて来ておる。

次に、機運醸成である。

木造復元事業の機運を高めるため、イベントを行っておる。VR 映像で木造天守の内部の体験や、木造復元天守の模型を体験するイベントを商業施設で行ったのじゃ。また、イベントブースや城内などでの寄附や金シャチパートナーからの寄附・支援もいただいております。いただいた寄附は、木造復元事業に活用させてもらっておる。

さて、最後になるが、復元事業の推進の取り組みとして、今後も、文化庁や地元有識者からの指導・助言に基づき、適切に対応し、史跡全体の適切かつ厳格な保存を最優先にし、遺構等に影響を及ぼす事の無いよう、慎重に整備を進めるとともに、市民の皆の、木造復元事業への理解が深まるよう、機運の醸成に努めてまいる所存である。

以上で説明を終了いたす。名古屋城天守閣木造復元事業について、少しでも皆の理解を深めてもらう機会とする事ができていたら幸いである。ありがとさんじゃった。

④ 休憩

司会

ご清聴ありがとうございました。

それでは、準備のためステージを整えますので、5 分程の休憩とさせていただきます。併せて、これ以降閉会まで会場内のドアを開け換気をさせていただきます。何卒ご理解の程、よろしくお願いいたします。

休憩中のこの場を借りて、ご来場の皆様に催し物のご案内をさせていただきます。来たる 3 月より、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策への取り組みに対し、市民、事業者の皆様へ感謝とエールを伝え、人・まちの元気を取り戻す一助を担うとともに、名古屋城の歴史的価値への

理解を深め、魅力を知る機会を創出するため、名古屋城の金のしゃちほこを地上に降ろしご覧いただく、「名古屋城金鯱巡回展」を実施します。是非皆様足をお運びください。

また改めまして、皆様に会場内のご案内を申し上げます。感染防止の観点から、会場内でのご飲食はご遠慮ください。ホワイエにて飲料のみご利用可能です。加えて、マスク等による、咳エチケット、手洗いの徹底をお願いします。会話はなるべくお控えいただき、大声も出さないようお願いいたします。受付でお配りした座席記入カードへの座席番号のご記入をお願いします。お掛けになった席の背もたれ上部に列・番号がございます。カードは、説明会終了後に、受付で回収させていただきます。当施設内及び会場内では禁煙となっております。携帯電話、スマートフォンはマナーモードに切り換えていただくか、電源をお切りください。携帯電話、カメラなどを使用した撮影はご遠慮願います。客席通路は非常の際の避難通路となるため、物を置かれませんようお願いいたします。非常の際は、会場の全ての扉を開放します。大きな地震などの発生により、避難が必要な場合は、係員の指示に従っていただき、慌てずに避難していただきますようお願いいたします。それでは準備が整うまで、今しばらくお待ちください。

⑤ 質疑応答

司会

お待たせいたしました。ここからは名古屋城天守閣木造復元事業につきまして、皆様からのご質問をいただきたいと思います。なお、名古屋城調査研究センター学芸員による講演についての質問は、この場ではご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。天守閣木造復元事業についてのご質問に限らせていただきます。何卒ご容赦ください。

最初に、会場の皆様からのご質問にお答えする職員等を紹介いたします。

名古屋市長河村たかしでございます。

名古屋市観光文化交流局局長の松雄でございます。

名古屋城総合事務所所長の佐治でございます。

主幹の荒川でございます。

主幹の荒井でございます。

主幹の森本でございます。

保存整備室長の鈴木でございます。

調査研究センター副所長の村木でございます。

主幹の上土井でございます。

株式会社竹中工務店でございます。

それでは只今よりご質問を伺います。

ご発言につきましては、できるだけ多くの方からいただきたいと思いますので、お1人様3分以内で、簡潔にご発言いただきますようお願いいたします。なお、2分30秒になりました

たら、私からお知らせさせていただきますので、残りの 30 秒にて、お考えをまとめていただきたいと思います。また、他会場を含めまして、まだ発言をされていない方、こちらを優先とさせていただきます。初めてご発言される方から手を挙げていただきますようお願いいたします。手を挙げていただきますと、会場 2 人いますが、係の者がマイクお持ちします。ご発言はマイクを通して、お願いいたします。

それでは、どなたかご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。挙手をお願いします。一番早かったですかね。はい。マスクの方よろしくをお願いします。

市民 A

座ったままで話させてください。天白区からまいりました。(個人名)と申します。先程河村市長はね、色んな意見を聞かせてくださいという事でしたので、名古屋城の天守閣の整備について、意見を中心に述べたいと思います。名古屋城の整備は終わったものと終わらないものがあります。本丸御殿はでき上がりました。金シャチ横丁もできました。しかし、天守閣は入場禁止のまま放置されています。何故でしょうか。それは天守閣の木造復元がやっぱり無理な計画だったからだと思います。河村市長は木造天守という夢を見せてくれました。河村市長ならではのアイデアでした。しかし今は、夢と現実を区別する時期が来たのだと思います。そもそも、江戸時代と同じ木造の天守閣をそっくり建てて、それを地震にも火災にも強く安全でバリアフリーも完備した建物にする事は無理です。防災避難設備の無い危険な建物は建てられない。名古屋市はそうやってきました。ですから、今日までどんな基本構造の天守閣にするか決められないのですね。ではどうするか。簡単な事です。天守閣の整備は木造復元ではなく、大阪城や熊本城天守閣の整備をお手本にすれば良いのです。どちらも鉄筋コンクリート製の天守閣で、指折りの観光名所です。まもなく公開される熊本城天守閣は、耐震改修と整備を終えました。そして、ホームページにこんな言葉を載せています。震災復興のシンボル。次の 100 年も一緒に、です。まだ 100 年、大丈夫なのです。かつて名古屋市は今の天守閣を戦後復興のシンボルと言ってきました。文化庁は現在の天守閣を、戦後の都市文化の象徴と評価しています。今の天守閣は博物館です。展示を充実すれば尾張名古屋の歴史も、焼失前の天守閣の様子も、見学者にわかりやすく説明する事ができます。建て替えなくても良いのです。これは私の意見です。以上。

司会

はい、ありがとうございます。主に 2 点というか、いう事かなっていう風に承りましたが、まず 1 つが、入場禁止になっているのが、もう既にそれこそ本丸御殿とか金シャチ横丁ができてるのに、天守閣がずっと閉鎖されてるって事に対する、何故かっていうところと、もう 1 つが、やはり木造でっていう事に色々無理があるので、今の鉄筋コンクリートで良いじゃないかっていう、主にその 2 つでなかったかと思います。じゃあ、お答えをお願いいたします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。まず今、現天守閣が閉鎖しておるという事につきましては、こちらは、耐震診断をしたところ、非常に値の低い数値が出まして、大地震時にも倒壊等の恐れがあるという事がございまして、入場禁止という措置を取らせていただいております。で、耐震補強すれば良いじゃないかというような声もあると思うんですけども、名古屋城につきましては先人が残していただいた、色んな史資料も豊富に残っておりますし、建物自体ですね、今の建物自体、機能の面でいきますと、博物館という機能についても現在の博物館としては、少し、色々課題も多ございまして、名古屋市としては、残されてる資料ですとか、現状の天守閣の状態等勘案しますと、木造復元という事で、方針を固めております。

司会

はい、ありがとうございます。では続きまして、先程先に挙げてましたよね。そちらの方ですね。はい。お願いします。

市民B

西区の児玉すぐそこの（個人名）と申します。自転車で来ました。3つ程ね、質問があります。1つは、基本設計ができたという事なんですが、何かオンブズマンの方に聞きましたら、何か何ができたかを知ろうと思っても、何か真っ黒の黒塗りが出てきましてね、よくわからないという事で、市民に結局知らされないようなものが、何か秘密主義のようなね、のがあるんでないかと。んで、実施設計という事ならね、細かい事まであるから、色々、その秘密もあるかもわかりませんが、基本の、基本設計の場合は骨組みですからね。そんなところで秘密などは無いはずで、江戸時代からのものを造り直すんだから秘密ってのは無いと思うんですけどね。それから秘密主義をどうして続けるのかという事はまず1つです。それからもう1つはですね、500億円以上の経費がかかる木造なんですね。それに対して市民の税金は使わないんだという市長さんのね、お考えで、債券を発行するとかね、それから後でお金返すとか、どうやって返すのかという、木造ならみんなが見に来ると、世界中から来るというような事でね、何かなあ、人数が何人とかね、すごい何か数字も見せていただきましたけどもね。これ、これ、コロナでね、今飛行機も飛ばないというような状況がかなり続くような状況でね、国内の、国内からの観光客も来れないというような状況で、これは今だけじゃなくて、まだしばらく続きそうなんですね。で、これ、コロナの状況を見ますと、人数、何人来るから何人入場料があるから、お金返せるんだというその計画ですね、これを見直さなきゃいけないのじゃないかと私は思ってるんですが、その辺をどうお考えなのかという事で、これが2つ目です。それから3つ目は先程から言ってる、言われているバリアフリーのね、何か新しいその技術のあれを、3年程前から、何か、

司会

そろそろまとめていただけると。

市民B

募集しておられるから、もうそろそろね、アイデアというのの中でこれだというのが、みんなびっくりするような新兵器っちゅうのか新技術というのかね、それがそろそろ出てくるんじゃないかと思ってるんですが、その辺はどうなんですかという事でその3つをお願いします。

司会

はい、ありがとうございます。3つっていう風にはっきり言っていただきましたので、最初が基本設計について、秘密主義かっていう事で今までも何度か市民の方が聞いている中で、その辺の内容がよくわからないのでその辺についての、聞きたいっていう事が1つ。それから2つ目が、特に500億の事業がかかるところに対して、入場料、入場者を多くする事で多くなるという予測の中で、ある程度返していくんだらうけど、特にこのコロナ禍、に対しての、やはり入場の予測の見直しが必要なのかどうかっていうところをお聞きしたいと。そしてもう1つが、バリアフリーの事で新技術とかそろそろ見られただらうかっていうところで、その辺をお聞きしたいと、この3点でよろしかったでしょうか。はい、ではよろしくお願いします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。ご質問ありがとうございます。まずは情報公開の件につきまして、お答えさせていただきます。おそらく仰って見えるのが、基本設計ではなくて多分基本計画の事かと存じますけれども、基本計画の方ですね、まだ固まりきっていないというところもございまして、中途半端な情報を開示する事によって、市民の間に混乱を生じさせるですとか、もしくは率直な国等とのですね、率直な意見交換や意思決定の中立性、そういったものが損なわれる恐れがあるとか、中には、事業者の法人等に不利益を与えるような、そういったものも含まれておりますので、そういったところについては、非公開という形で出させていただいております。で、問い、ご質問になかった基本設計図、こちらにつきましては、まだ現在検討中、これからやっていきます基礎構造の部分について以外は開示させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

上土井名古屋城総合事務所主幹

はい。続きまして、収支計画についてご説明させていただきます。お尋ねの収支計画でございますが、現在ですね、新たな竣工時期が定まっております。この竣工時期がですね、定まり次第、新たに収支計画を算定をしていくといった事でございます。今の新型コロナウイルス感染症による社会状況ですね、こちらですね、今後どうなるかと、見通すといった事は大変困難でござ

いますが、感染症収束後を見据えた名古屋城の楽しみ方を検討していく必要があると思います。只今ですね、ご好評いただいております本丸御殿に引き続き、木造天守、二之丸庭園の整備など、名古屋城全体として、更なる魅力向上に繋がる整備と新たな誘客策、天守はもちろんですが、分散して場内を楽しんでいただけるような工夫、取り組みを、名古屋城としても考えていく必要があると考えております。以上でございます。

森本名古屋城総合事務所主幹

すみません。では、バリアフリーについてお答えしたいと思います。本日の資料の10ページにも、バリアフリーの関係のスライドが入っておりますけれども、本市としては、復元する木造天守は障害の有る人も無い人もできるだけ同じように、観覧できる事が大切ですから、整備の考え方は、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立を考えております。どんな技術があるのかという話もありましたけれども、今日、本日の資料編の方にもですね、バリアフリーの事を書かさせていただいておりますけれども、資料の冊子の方では11ページの方に、本市の木造天守閣の昇降に関する付加設備の方針を、抜粋ですけれども、掲げさせていただいております。この、江戸時代には無かったバリアフリーの考え方、そして、その技術なんですけれども、歩行の、その歩行や階段の昇降が困難な方、そして、車椅子の方などに、安全に、安心して昇降いただける技術を想定をしております。これまで様々な技術やメーカーの調査、そして世界的にそういった事を調べてまいりましたけれども、これにつきましては、まず、公募でやるという事を考えておりますので、是非とも、応募していただいけるような、色々調べ方をしているんですけれども期待もしているという事です。例えば、その歩行や階段の昇降が困難な方の昇降に関してですけれども、特に乗り換えができない電動車椅子の方がそのまま昇降可能な技術、こういったものが望まれますので、是非ともそういった、技術をこの公募によって採用していきたいと考えております。

司会

よろしかったですかね。はい、ありがとうございます。では次の方、えーっとですね、ちょっとすいません。じゃあ一番手前の緑の方、すいません。ちょっとできるだけ次、満遍なくちょっと行くようにします。ちょっとお待ちください。すいません。はい。

市民C

今日はどうも本当にありがとうございます。で、ちょっと質問が多いものですから、項目が意味がぐちゃちゃで申し訳ないですけど、今日のところにもあった説明の本編の方の、5ページ目の、上端の、き損事故の対応の流れといいますか、その、事故の前に復旧しましたって風に書いてあるんですけど、ぶつけた石というのは、ヒビか何かが入ってるだけ、入っただけと思うの

で、事故前の状態には戻って、戻っていないんじゃないかという事。それから、8 ページ目の下の、石垣部会の、この事故についてはどうなのとかいう年表じゃないけどそこに書いてある、そこにあの、何年の、4 月の時点でここまでしてます、で何年の何月までにこうします、示す、年度目標みたいなのが書いていないんで、その対応関係っていうんですか、それがどういう風になっているのか。それから、9 ページの下の、木材、岩手県かヒノキから何本とか書いたとこなんですけど、そういうふうに沢山書かれたんですけど、それも現状 2000 だか 2500 の木材に、ヒビだとか、欠けだとか、そういう損害がでる、損害というかそれが、加工によって、というか加工後に出て来て、100 本もう使えないんですって出たりそういう事が起きてないのか。それから、このおまけの資料みたいなのを使わせてもらんですけど、その 4 ページから 5 ページにかかる事なんですけども、その資料の事故とかそういうものの発生と、市長の会見するまで意外と 2 週間から 3 週間経ってるんですけども、この時差がどうしてこんな事になっているのか。それからちょっとわからないんですけど、8 月の何日に、石垣部会かそんな事が書いてあつての 9 月以降の、何ちゅうの、石垣部会でどういう話しました市長がこういう事話しましたとかそういう事とかが一行もないんですけどもそこについて何か動きがあるのか。それから、8 ページ以降の、二之丸の、発掘調査をしましたとか、そこに書かれてますけども、これは本丸と同時にやるのかその後にやるのか知りませんが、二之丸に、元々あった御殿を造るとかそういう風に、ただただに名古屋城、城内の建築関係に関わってくるのか。それから 12 ページ、先程お話も関わってくるんですけども、障害者の対応、対策というかそこで、

司会

ちょっそろそろまとめてもらえますか。

市民 C

もう少しで終わります。障害者の対応とかそこで、署名をもらった日付から、公募、名古屋市かの団体の、か協会か何かに対して公募しますよという説明と、その後の話し合いの協議結果の、期間が半年とか 1 年とか経ってるんですけども、経ったんですけども、これの対応までが軽く見ているのか長すぎるんじゃないかという事。それから 15 ページの資料の、市長は必要と言うかもしれませんが、木造の体験館といいますか、会館の、これは、もっとちゃんと、今の時点では石垣の修理が終わって、例えば 4 月から見れますよとかいうふうになった場合は必要なかったんじゃないかと思うんですけども、僕は思ってますから、そこで今回この建物は必要だったのか。で、どうやって出してるか寄附かどっから出てるか知りませんが、この経費も本来、ちゃんと詰めれば、いらぬお金だったんじゃないかという事。

司会

大丈夫ですか、それで。

市民 C

はい。今の、10 項目ぐらいを。

司会

そうですね。なので、ちょっとできる範囲で、他の方の質問もありますので、ちょっと 10 項目全部っていうのはさすがに無理だと思うので、後でちょっとまた書いていただいてご質問いただければそれに回答するとか、という形で対応させていただいて、いくつか、可能な範囲で答えをっていう事をお願いできればと思います。すいません。お願いします。じゃあまずき損事故等の事だったと思いますので、お願いします。

鈴木名古屋城総合事務所保存整備室長

はい。保存整備室長の鈴木でございます。き損事故についてお尋ねをいただきました。き損した石の列が、本当に元に戻るのかというような観点であったと思います。この事故につきまして、約 1 年前ではございますけどもこの 4 ページ 5 ページにございますように、昨年 3 月に江戸時代の米蔵の跡と思われる、貴重な石列をき損してしまったものでございます。大変に申し訳なく思っております。で、ご質問いただきました元に戻るのかという事でございます。1 度動かしてしまったものを戻す、という事でございますので、本当に全く同じものかと言われると、そこまでは言い切る事はできないんですが、丹念に調査を、この半年間やってまいりまして、石の痕跡でありますとか、石同士のかみ合わせでありますとか、こういったものを丹念に調べさせていただきまして、文化庁とも協議をした上で、極力、江戸時代と同じ場所に再現できるように努めて参ったところでございます。以上でございます。

司会

はい。じゃあ次お願いします。

荒川名古屋城総合事務所主幹

はい。資料の方の 8 ページのスケジュールの方で年度が入っていないというようなご指摘だったかと思うんですけども、昨年度 8 月の時点で現天守閣の解体に着手できませんでして、2022 年 12 月の竣工を目指す事が現実的に厳しい状況となりました事から、あとクリアすべき調査・検討に全力を挙げて取り組むため、竣工期限を延期させていただきました。その後、文化庁様の方から解体の現天守閣解体の現状変更許可申請に対しまして、具体的な調査不足ですとか、

検討事項というものが示されましたので、今年度は主に指摘事項に対応するための調査・検討を進めてまいりました。今年度内に一定の取りまとめを行いまして、今年4月、文化庁への追加情報提出に向けて、作業を進めておりまして、指摘事項への対応に一定の区切りをつけて、木造復元の議論を進めていただける環境を早期に整えてまいりたいと考えております。まずはこういったスケジュールに遅れが生じないように、最優先で進めて、それを踏まえて、また新たな工程、いつが竣工時期なのかという事についても、整理していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

荒井名古屋城総合事務所主幹

続きまして、木材の関係でご質問いただきまして、9ページに、約2000本近く、木材を調達をしているという事です。で、今現在ですね、この調達している木材は、竹中工務店さんが管理していただいております倉庫に保管しております。その倉庫というのは、木材を保管するという意味で、雨だとか湿気、あるいは直射日光を防ぐ、で通気性の良い環境を整えて保管しております。そういった適切な環境で保管する事によって、木材が使えなくなるとかいう事がないような監視、管理をしながら保管しております。現実、その表面がですね、色が変わったりとかいうような事ありますが、今現在は粗製材といいまして、丸太から大きく、大きめに、製材した状態でおりますので、で、実際使う時には表面をまた更に削るという事をしますので、そういった表面の色の変色っていうものは、問題ないという事と併せまして、複数の宮大工さんの方からも、10年20年経っても、木材が使えなくなるといような事はありませんという事も伺ってますし、冒頭、市長の方からも、話の中で、法隆寺1300年という事もありまして、実際に木はそういうふう長い事、日本の風土に合うような建材として、使われてきたっていう実績もありますので、我々は今現在、しっかり管理をする事によって、その期間無駄にはならないという事で、保管しておりますので、よろしくお願いいたします。

村木名古屋城調査研究センター副所長

はい。石垣部会の先生方の今現在の状況というご質問だったかと思います。それにつきましては現在私どもの石垣の現況調査、現在の状況を把握する調査を進めておりますのと、あと本日の説明にもございましたけれども、文化庁からの指摘事項にお答えする調査を進めております。そういった現状把握の調査、指摘事項に対応する調査につきましては、石垣部会の先生方に相談しながら進めて参っておるところでございます。なかなか部会等こういった状況で、開きにくいところがございますけれども、定期的には報告をさせていただいておるところでございます。

森本名古屋城総合事務所主幹

バリアフリーの関係の、その協議会とかですね、そういったものに関する事なんですけれども、本市の場合、名古屋市障害者団体連絡会などを中心に、障害者団体の方々と色々話し合いの場を設けているところなんですけれども、こたびの、この木造天守のバリアフリーに関しては、障害者団体の方々のご意見を常にお聞きしているんですけれども、公開の会議ではない状態という事も、希望を受けておりまして、度重なるその話し合いの場を公開していない状況ではあります。しかしながら、そうした皆様と様々な意見を取り交わしておりまして、今回事業全体ですね、進捗状況を踏まえて、先程申し上げました公募について、この考え方、これを適切な時期に、十分に検討した上で開始したいと考えているところです。あと、階段体験館なんですけれども、こちらの方も、実際に木造天守の1階部分の階段を再現しておりまして、見ていただける状態にはなっておりますけれども、実際にこのバリアフリー新技術の実用化をするためにも、この実験等のために、造ったものでもあります。現実そのまだ公募が始まっておりませんので、新技術による実験までは至っておりませんけれども、観覧者の皆さんには、この木造の階段を見て楽しんで、見て確認していただいている状況でございます。あとは、階段体験館こちら、土日祝日の開館ですので、ご了承いただきながら、また、そういった日にお越しいただければと存じます。

司会

はい、ありがとうございます。よろしかったですかね。はい。すいませんちょっと時間の関係で一応あの、あと2人ぐらいでちょっとお願いできればと思います。できるだけちょっと手短にお願いしたいと思います。そうですね。ちょっとですね、すみません。ちょっとこちらの方もあるんですけど、後ろの方の方もちょっとまだ当ててないので申し訳ないんですけど、こちらの方の方、お願いします。申し訳ありません。はい。

市民D

はい。中区の（個人名）と申します。木造復元の天守閣を一刻もですね、待ち望んでいる1市民として、アドバイスっていうか、ご意見を申し上げたいと思います。今やっぱり実現に向けての一番の課題は、文化庁の認可の問題だと思うんですよね。で、私も外部からしかわかんないんですけど、どうもここで時間がかかっているんですよね。で、やはり名古屋市側の体制が弱いんじゃないかなと、ずーっと感じてます。外部からですけどね。で、この際体制を強化するなりしてですね一刻も早くですね、認可がですね、されるようにですね、是非ご努力いただきたいというのが、1市民としての要望でございます。それから、あとですね、竣工時期が非常に気になってまして、私ももう70過ぎてますんで、この生きてる間に是非見たいなという風に思ってます、今新聞報道なんかによりますと2028年なんていう年が出てますけど、何とかこれをですね2、3

年前倒しはできないものかなと、というのが私など含めてですね要望する者の1意見だと思います。それから後、認可が下りた後にですね、これ竹中さんの問題かもしれないんですけど、その工事に取りかかった時の課題ですね。これが何かあるのであればですね、何か、この際お聞かせいただければという事で、2点お願いしたいと思います。

司会

はい、ありがとうございます。主に体制強化の話についてが1つと、それからやっぱり竣工の時期をできるだけ早くして欲しいと、いうところでの工事の取り掛かりの事も含めて、ご質問をという事だったかと思いますが、どなたが。はい。お願いします。

佐治名古屋城総合事務所長

どうも、ご質問ありがとうございます。まず体制強化の関係でございますが、今、名古屋城総合事務所で色々な事務、事業をやっておりますけど、平成31年度、令和元年度にですね、調査研究センターっていうの創りまして、そこで専ら色んな発掘であるとかそういった調査をやっているところでございます。そこには学芸員がおりますけど、学芸員の体制も強化しておりますですね、文化庁の様々な色んな宿題に答えられるような形で今対策強化しながら進めているところでございます。それから竣工時期につきましてご質問がございました。確かに1度有識者会議だとか議会の方にですね、一定の期限を示した事もございますが、現在我々としましては、この資料の8ページにもございますように、文化庁からの指摘事項、これにつきまして、この3月中にまとめてですね、4月に文化庁に出すと、その後、復元検討委員会にかけていただくという事を今、最大の目標として頑張っておりますので、まずそのところをしっかりクリアした上で、次のまた工期の確定というかそういったところについても結びつけていきたいなという風に考えているところでございます。

司会

はい、ありがとうございます。では、ご質問の方お願いします。多分、ちょっと後ろ真ん中の列の後ろの方当ててなかったんで、その方、

(会場から)

あと竹中さんの質問が、

司会

あそっかそっか、失礼いたしました。すみません。

竹中工務店

はい。確かに今回のような大規模木造建造物の工事というのはですね、大変この、過去にも類例がない工事になるという風に認識しておりまして、手前どもも奈良の大極殿とかですね、ある程度大規模なものは経験があるんですけども、今回の名古屋城のような大規模な木造建造物は、ある意味初めての試みという事になります。やはりそういった観点に立つとですね、やはりこういう伝統に関するですね、色々な職人さんの方とか、材料の供給とか、いわゆる調達ですね、そういったバックグラウンドまで含めてですね、やはりどういう体制を組んでいくかという事が、工事に関する大きな課題かなというふうに認識しておりまして、今後具体的にですね、竣工スケジュールが明確になってくれば、その辺りのですね、プロセスも明確にしながら、今回の大規模な木造復元工事にですね、取り組んでいきたいという風に考えております。はい。

司会

はい、ありがとうございます。それでは、先程の真ん中の列の。はい。後ろの方ですね。はい。その方です。お願いします。

市民E

千種区から出ました（個人名）と申します。最初に1点、ちょっと市長がですね最初の時に50年経てば国宝になると思いますよという話を、まあ面白い話をされていたんですけども、名古屋市としては、これ現実的な話かどうかちょっと確認を、回答をお願いします。あと竹中工務店さんもこれまで戦後、様々な木造建築やってる、復元も含めてやってると思いますけども、50年経って、国宝になったものがあるかどうか、それ回答をお願いします。バリアフリーに関しまして、今日回答の中でも、電動車椅子が乗り換えなしでっていう話がありましたんで、これは非常に良い話だなあと思いました。で、追加で確認なんですけども、現状小型エレベーターの方が非現実的、まあ小っちゃいもんでっていう話なんですけど、そんな時は11人ですとか15人に急になっちゃうんですね、で、この間の人数、要するに電動車椅子が乗れて、かつ、史実にも忠実に近いものを検討した事実があるかどうかをちょっと、名古屋市の方と竹中工務店さんの方に確認をしたいです。で、最後なんですけども、人員体制の件なんですけど、まず有識者部会の方なんですけども、現状天守閣部会、後は全体整備の方で、近代建築の方、近代建築の専門の方が座長を天守閣部会の方とかで、務めてると思います。で、城郭考古学の方はあまり得意ではないように見受けられます。で、例えば広島の方でいいますと、天守閣部会に入っている三浦正幸先生ですが、座長になってます。あと、石垣部会では、金沢城の方で担当された方もいらっしゃいますし、名古屋の方の学芸員からキャリアスタートされる、千田教授がいらっしゃいます。そういった方々を差しおいて、あの方が何で座長なのかなっていう。結局あの方が、石垣部会が安全性軽

視してるよとか、そういった、ちょっと余計な話をするもんだから、ちょっと遅れてる気がするんですね。で、正直、適格性っていう部分ではどうなのかなというのが正直なところです。それについてというお話をお願いしたいと思います。であと、その三浦先生が広島城の関係で仰ってるのは、名古屋城は非常に時間を浪費してると。で更に、担当者が異動でコロコロ変わるもんだから、人の数は多いんだけど、全然継続性が無い。で今やってる搦手の馬出の石垣の工事に関しても、結局あれ、最初からやってる人がほとんど残ってないですよ。担当の方が異動によって。辞めちゃったりとか。だからそこら辺の事も考えて、人員体制確保してかないと難しいんじゃないですかっていう事が1つ。ごめんなさい最後に1点だけ。安全性の事に関してなんですけど、現状天守閣のところ、下、人、ちょっとこの前モルタルが落ちたせいかわかんないんですけど、ちょっと離れて移動できるようになってるんですけど、でも、

司会

そろそろまとめていただけますか。

市民E

はい。あれなんですけど、あんだけしか離れてないんですよ3メートルから2メートルぐらいしか離れてないんですよ。あれで耐震不足だって言って閉めてるところのところから2メートルしか離れないところ。観光客が普通に通ってるんですよ子どもとかも。であれでもし何か上からもの落ちてきたら、間違いなく、20メートルから10メートルのところから落ちてくるわけですから、安全性に問題がありますよね。それ良いんですかっていうのが1つ、最後です。すいません。ありがとうございました。

司会

はい。ありがとうございます。木造の事で、新しく木造復元すると、50年だったら、国宝になるだろうってその辺に対するその見識がどうなのかっていうのが一つと、それから、特にエレベーターの中で11人乗りと小型の中間のところで電動車椅子の方が乗れる事ができるのかっていうところと、それからやっぱり体制の特に有識者会議のところで、その近代建築の方が頭に立ってる事に対する、ご質問と、それから体制として、継続性っていうか、市のスタッフの方の継続性の話。そして最後に、安全性、これだったかと思いますが、よろしいでしょうか。はい。お願いいたします。

村木名古屋城調査研究センター副所長

はい。復元建造物が50年で国宝になるかというご質問かと思います。思います。それにつきましてはこれまでのところそういった復元された建造物が、後に、国宝になっているという事例

がございませんので、私どもといたしましてはその50年後、どういう風に判断されるかというところを、今の時点で、すいません。私どもとしてはお答えを持っていないというところでございます。

(会場から)

ほんとにやるんかな。

河村名古屋市長

いや、何を言っとるの。

森本名古屋城総合事務所主幹

はい。それでは先程いただきましたバリアフリーの事に関してですけれども、公募によってですね、広く、障害の有る方無い方、同じようにですね観覧していただく事が大切だと考えておりますし、その検討なんですけれども、先程仰いました、11人乗り、これが整備指針に掲げられている、エレベーターの人数になるわけなんですけれども、あくまでも木造天守の場合は、柱や梁などの主架構を変更しない事を念頭に考えておりますので、その状態で、先程申し上げたように、電動車椅子などの方が乗り換えをしないでも、また介助者の方と一緒に昇降できるような、そんな技術をイメージをして、調べてまいりましたので、ご理解をいただきたいと思います。

村本名古屋城調査研究センター副所長

はい。それから担当者の継続性の問題をご質問あったかと思います。こちらにつきまして、ご指摘があったのが担当、整備事業に伴って調査、併せて調査しながら整備を進めてまいりますので、担当学芸員といったところのお話をいただいたのかなと思うんですけれども、こちらにつきましては先程私どもの所長の方からご説明申し上げた、ました通り、近年、体制強化してまいりまして、調査研究センターというのを作ったところでございます。そちらに、これまで搦手何かにいたしましても調査を担当する学芸員が1人というような状況でやって参ったところでございますけれども、担当する学芸員が今、考古学の学芸員だけで定員としては8名ございますので、その同じ人間という訳ではないんですけれども、組織としては継続して、調査・検討を進めていける体制になっておるのかなと、なりつつあるのかなという風に考えておるところでございます。そういったところも配慮しながら、調査研究を進めてまいりたいとそれに併せて整備も進めてまいりたいという風に考えておるところでございます。

司会

はい。あと、おひと方だけ。先程、

(会場から)

竹中さん。

司会

竹中さん。はい。

竹中工務店

繰り返しの説明になるかもしれませんが、手前ども当初の提案時からですね、主架構、いわゆる柱とか梁とかですね、そういう主要な木材を極力いじる事なく、何とか昇降機がつけられないかという事で、4人乗りとか5人乗りとか非常にコンパクトなエレベーターを提案させていただきました。ただ残念な事にですね、そのエレベーターのサイズでは、電動車椅子はですね、載せる事ができません。やはり一般のですね、車椅子は、乗せる事ができるんですけども、だからそういった意味で、最近は電動車椅子の方が非常に増えてるという事もありまして、その辺りをですね、今後の協議事項という事になってるという風に理解はしております。エレベーターについては、そういう考え方で、当社としてはご提案差し上げました。はい。

佐治名古屋城総合事務所長

あとすいません、有識者会議のメンバーについてお尋ねがあったかと思っております。各座長であるとかそういう部会の座長の選任の仕方でございますけど、色んな得意分野でありますとか、過去の色んなその市の会議の取りまとめる実績とかそういう事を総合的に勘案してですね、選んでおりますので、ご理解いただきたいと思います。からもう1つ、組織の関係で人員体制の事がございました。学芸員に限らずですね、我々プロジェクトを進めておりますので、全体的にはその市の人事の中で動いておりますけど、特に専門性の継続という事が大切でございますので、そういった事をしっかり要望しながら、人事についても進めているというところでございます。

司会

はい、ありがとうございます。あと最後に、おひと方。ずっと挙げていただいて、いただきますもんね。ちょっと真ん中のこの、方をお願いします。

市民F

木造復元ですけど、今風に木材そのものを、抗菌処理とか、造る時にね、それから、不燃処理が今できるらしいですね木材に対しては。そういう事やって本丸御殿木造建物造ったらいかがで

しょうか。今のあれですか。天守閣もそういう風にやって、抗菌処理をやって造って欲しいんですけど、できますでしょうかね。

司会

どうでしょうか。はい。お願いします。

荒井名古屋城総合事務所主幹

ご質問ありがとうございます。我々が今、目指しているものは、史実に忠実な復元という言い方をさせていただいておりますが、元々その抗菌処理っていうものをですね、木材を保存させるためのやり方として今現代やっておりますが、当時そういったやり方がですね、おそらくやってなかったという風にも認識しております。でそのため、ただ、そのため、そういった事をやる前提ではおりませんけど、例えば本当に湿気が多いようなところについては、例えば伊勢神宮だとかで、足元に銅板を巻くだとか、というような事をやって、防腐処理をしてると、腐りを遅らせるというような事もやるっていうような事も聞いておりますので、名古屋城を管理する上で、そういった事が必要だという事になれば、当然有識者会議あるいは文化庁の方とも相談しながら、そういう工夫はやれるかどうかと、やって良いかどうかっていう事も含めて、検討してまいりたいと。ただ今現在ですね、そういう事を、本当に腐りやすい部分以外は、我々は考えておりませんので、元々の通りに、復元していきたいという風に考えております。

司会

はい、ありがとうございました。多くの方にご質問いただきましてありがとうございました。閉会の時間がまいりましたので、最後に河村市長より一言、閉会のご挨拶を申し上げます。

河村名古屋市長

はい。それでは今日もありがとうございました。中区の方が言われたけど、わしも72でございまして、早う造ってもらわん事には八事行かんらんようになるもんでねこれ。だで、というんだけど文化庁は先程言ったかどうか知りませんが、これ、第1号になるわけです。コンクリートで造ったやつを、図面でやる復元というのは、第1号というより、もう無いわけです。世界中で。ですから、河村さん悪いけど、丁寧な上にも丁寧にやらさしてちょうよと、いう事になっておりますんで、こちらもそういう気持ちでやってかないかんもんでこうなると。最後に1つ言いますけど、これはやっぱりね、値打ちをどう考えるかなんですよ、これ。名古屋城の木造復元という、そんなもんええがやと燃えてまったで別にええがやと言って無しで、コンクリートでええがやと、いう考え方もあるでしょうそれは。しかし、じゃあ沖縄の首里城。あれ、非常に悲しい事に燃えましたね全部。あれをほいじゃあ皆さんがコンクリートで造ればええんですか、

無くなってしまったという事で、今んとこ僕はそれはありえないと思いますやっぱり、沖縄の人の気持ちを考える時にね、これ。そういう事もありますので、木の文化というのは、これは是非グループで見ていただきゃ、奈良ドキュメントと言いますけど、木の文化って燃えて無くなっちゃうんですよ。首里城もそうですわ。名古屋城もこっから見えると思いますけどね、何にも無しになりましたがね。だけど、フランスのパリのノートルダムキャシードラルノートルダム寺院は、燃えましたがね、燃えたけど、木の部分だけ燃えただけで、表面は残っとるんですよちゃんと。それだで石だとか、レンガだとか、そういうのになると残るんですねやっぱり。ほれからギリシャのパルテノン神殿、残っとるでしょうああいうのは。だから、皆さんの気持ちの中に、まあ燃えてしまったでまあええがやと、昔の事だでええがやと、って言うてしまうのか、それとも、これは文化庁が頑張りまして、奈良ドキュメントという、いうのがあるんだけど、3つ条件があるとその代わり。1つは、その場所に復元する事、違うところはいかんらしいですわ、真上にと書いてあります、名古屋城は真上ですわ。それから、図面とかそういうものがやっぱり残ってる事と、いう事、から3つ目は、材料も、まあ材料木ですから、その当時のものは、現、本当の事言ってもう無いですからね燃えちゃって、だけどそのなるべくおんなじものを使っている事と、この3つの条件が揃った場合は、木の文化においても、それ石と同じようなもんで本物なんだと、それは、400年の時空を超えて、

(会場から)

そんな事書いてあるか。

河村名古屋市長

と見做すんです、これは。そういう精神で木の文化をやらないと、木のぶ、はいじゃあ伊勢神宮も20年毎にみんな建て替えますよね、あれ国宝じゃないの国宝よりもっとすごいだらうと思うけど。

(会場から)

市長の意見を聞きに来たんじゃないんですよ。

河村名古屋市長

いやこれは私の意見を言わなканですよこれ。

(会場から)

それで良いなら意味無いだらうが。

河村名古屋市長

それから、

（会場から）

そういう批判なんだから。

河村名古屋市長

春日大社は、春日大社は20年毎に建て替えますけど、あれ国宝ですあれ、という事でございますので、僕はね、ものすごい価値を有する建物だと、特に戦争で焼けたというこの悲しみを乗り越えて、この、やり直せる名古屋とかやり直せる人生、から平和を訴える、のにはもの世界へ、この1000年というのは、すごい皆さんが宝を残す事ができると、いう風に僕は考える、

（会場から）

うちの宝じゃないか。

河村名古屋市長

という事でございますんで、長い間、長い間といいますかその3回目ですけど。ようご意見をいただきまして、サンキューベリーマッチという事でございます。ありがとうございます。

（会場から）

奈良ドクトリン読んでみろよ。

司会

以上をもちまして、「名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会」を、終了いたします。

（会場から）

市長、

司会

混雑緩和のため、ご案内までお席でお待ちください。座席記入カード、アンケート用紙を出口で回収いたします。また他にご質問がある場合は、アンケート用紙にご記入ください。

(会場から)

そもそもなあ、河村市長、あんたに文化はわからん。

司会

それではお忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。

3 アンケート結果

(1) アンケート集計

① 回収数

	件数
1. 名東文化小劇場	43
2. 港文化小劇場	23
3. 西文化小劇場	44
4. オンライン	7
合計	117

② 居住地

	件数	構成比
名古屋市内	98	83.8%
市外	15	12.8%
無回答	4	3.4%
合計	117	100.0%

③ 年齢

	件数	構成比
1. 10歳未満	0	0.0%
2. 10歳代	0	0.0%
3. 20歳代	0	0.0%
4. 30歳代	5	4.3%
5. 40歳代	9	7.7%
6. 50歳代	35	29.9%
7. 60歳代	34	29.1%
8. 70歳代	26	22.2%
9. 80歳以上	3	2.6%
無回答	5	4.3%
合計	117	100.0%

④ 講演による名古屋城に対する理解度

	件数	構成比
1. 理解できた	78	70.9%
2. 理解できなかった	14	12.7%
3. どちらでもない	8	7.3%
無回答	10	9.1%
合計	110	100.0%

※オンラインでは非開催のため、他と合計が異なる。

⑤ 市の説明の理解度

	件数	構成比
1. 理解できた	74	63.2%
2. 理解できなかった	14	12.0%
3. どちらでもない	16	13.7%
無回答	13	11.1%
合計	117	100.0%

⑥ 説明会の理解度（年代別）

	理解できた	理解できなかった	どちらでもない	不明	合計
1. 10歳未満	0	0	0	0	0
2. 10歳代	0	0	0	0	0
3. 20歳代	0	0	0	0	0
4. 30歳代	5	0	0	0	5
5. 40歳代	7	0	2	0	9
6. 50歳代	21	2	8	4	35
7. 60歳代	26	4	1	3	34
8. 70歳代	12	7	4	3	26
9. 80歳以上	1	1	0	1	3
無回答	2	0	1	2	5
合計	74	14	16	13	117

(2) アンケート内容

①説明会アンケート用紙

名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会 アンケート

○ 講演で、名古屋城に対する理解は深まりましたか。

・理解が深まった ・理解が深まらなかった ・どちらでもない

○ 名古屋市からの説明について、理解できましたか。

・理解できた ・理解できなかった ・どちらでもない

○ 本日はご来場ありがとうございました。ご意見・ご感想を、ご自由にお書きください。

【あなた自身についてお答えください】

年 代	1. 10 歳未満	2. 10 歳代	3. 20 歳代	4. 30 歳代	5. 40 歳代
	6. 50 歳代	7. 60 歳代	8. 70 歳代	9. 80 歳以上	
居住地	1. 名古屋市内		2. 市外		

ご協力ありがとうございました。本アンケート用紙は、出口で回収させていただきます。

②名東文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	・金シャチ降臨については、質問者の意見にも一利有り。 ・耐震と木造再建は、同時に行う事に意気がある。 ・国宝を築造する事を明確に打ち出すべき。
名古屋 市内	60 歳代			
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	原先生大変興味深いお話でした。 ありがとうございます！熱田もよろしくお願い致します。
市外	50 歳代	理解が深ま った		次回も出席させて頂きます。 (状況把握の為)
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	完成予定を知りたかった。木造を楽しみにしています
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	毎回同じ内容で新たなことがない
市外	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	天守閣内のバリアフリーについては、階段とは別に「^{アト}後付け」の昇降機を設け、専用椅子を使用する。 天守台石垣の空襲時火災による劣化箇所は石積をやり直す。ハラミ箇所も積直しによる是正を行なう、必要があれば積石そのものを取り替える。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できな かった	まだ整理された状態ではないのではとの印象 4月に文化庁へ提出し回答を待った後での開催でも良かったのでは？
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	特定の方の質問が長く、質問数が少ないことが残念でした。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	こうえんはいらない 質疑時間を確保して下さい。 できもしない事業をなぜいつまでもぐずぐずたれながしてやっているのですか。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	30 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	各地域での市民説明会の実施をすることで、 現況を周知出来ることや、今後の木造復元工事工程に関 する、市民の意見要望を頂く、大切な会です。 多くの市民にご理解、ご協力を頂く為、しっかり丁寧な 説明して行ってください。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	原学芸員は、とてもわかりやすい説明会でした。ありがとう ございました。 バリアフリーの検討を取り入れられたことはとてもいいこと だと思います 木造復元は将来の子どもたちのためにすべきだと思います。
名古屋 市内				コロナはこれで収束ができるかは不明。 新種になり波がくることも考えて備えるべき 今も市の体制税制、災害に弱者です シャチをおろしてさわせるイベントは 1. コロナで非常識なさわせる× 2. むだなお金しかも公共の宝を1定の民営のように私し てはふさわしくない 3. 4月選挙利用(時期)どうか。 このように市民の財産を目的がゆがむ使い方は断じてよく ない。市民が主人公である市政にしてほしい。木造も1た ん全市アンケートをとるとよいのです。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	賛成と反対の方の意見を、それぞれ聞きたいが、どうにも 反対の方の意見が目立つ。それは反対意見を言いに来ら れることが目的なのかなと思います。 難しい方法だと思いますが、賛成意見、反対意見の両方 が聞けるような進行をして頂くと、わかりやすいと思いまし た。 時間制限のルールは質問者に守らせるべき。白髪の方は ルール違反だと思うが。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った		原先生の講演は非常に素晴らしく、良くわかりました。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	原先生の講演は非常に良かったです。
		どちらでも ない	どちらでも ない	質問の時間では賛否両論のようです。 天守閣建設は、市民の意見をよくきいて実行して頂きたい
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	具体的に復元工事許可を文化庁からもらうまでの過程が よくわかりました。 戦災にあうまで名古屋城が旧国宝の第一号だったことを 強調してもよかったのではないかと思います。
名古屋 市内	70 歳代			スライド時は会場前方部の照明をおとした方が見易い。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	地中にあった石列をき損してしまったことで、オオゴトにな っていることが残念です。展示施設はいつできるのでしょ うか？ この施設がないと収蔵するモノはキチンと保存できなくな ってしまわないか心配です。 文化庁の指摘事項について、今さら？と思います。 市民向けに説明してきた理由では文化庁は納得していな いのでしょうか？ 税金投入がゼロならいいのですが…。復元事業にこれま で税金いくら投入してきたのでしょうか？
市外	40 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	
名古屋 市内	80 歳 以上	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	特定の声の大きな方の質問のみで当初原先生の講演楽 しみに来ましたので何か心残りな会だった様に思います
市外	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	木造復元を早く実現して欲しい。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	すみやかな進捗をお願いします。 名古屋の宝の創出の実現を期待しています
市外	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	天守の木造復元に大きな期待をしています。 あわせて、門、やぐらの復元も検討頂きたい。 様々な意見がある事は承知していますが、粘り強く進めて 頂きたい。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	やっぱりうるさい市民がでてきたか。あれは市民の代表じ ゃない。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った		国宝第1号として誇れるものを造ってほしい 全国の城好きが、こぞって来たくなる城を望みます。 (姫路城より素晴らしく、コンクリート製でないものを) いつの世も日本だけでなく当時は文化的な事には、反対 意見があったが、後世の財産となり、先人に感謝している と思う。 司会の方、おつかれさまでした
		理解が深ま った	理解できた	・き損事故などマズイことが起きたら、すぐに文化庁に報告 できる体制をしっかりとつくってほしい。 (すぐに報告することが大切だと思う) ・木造復元をする上で、文化財として史実な木造の天守を 残す気持ちでやってほしい。国宝名古屋城にする意味 で頑張ってほしい。
名古屋 市内	80 歳 以上	理解が深ま らなかった	理解できな かった	なぜこの時期に天守閣を壊すのか？ 前に開かれた市民説明会でも、もう一度、市民の意見をき くべきという意見が多かったと思うが実施されていない。 木造ありきでゴリ押しされていると思う。 コンクリート造りでも 100 年以上、手入れをすれば持つは ず。そこを検討すべき。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	・現状の進行状況の説明が家康様がしてもらい、面白く、 わかりやすかった。 ・これからどうするのか、さっぱりわかりません

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				・文化庁がどういう判断をするのか ・事業が遅れれば借金が重み、どうするじゃあ。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	・コロナの状況の中での開催は不要不急に対してどう考える のでしょうか？ ・工程の流れはわかるが、明確なスケジュールは目標する 明らかになっていない。 ・調査ばかりしている感があるが調査が復元に本当に役だ っているのか 目的とコスト工期を明確にする必要がある。 ・バリアフリーも落とし所が見えない状態 史実との両立は本質的には無理で、史実復元のレベル を下げるかエレベーターをあきらめるかのどちらかだと 思われる。 ・リスクばかり考えないで復元するのであれば強い姿勢で マネジメントしていかないと何 10 年もかかってしまいそ うである。
名古屋 市内	70 歳代			説明会…現状の名古屋城復元問題の説明（名古屋市の スタンス）はわかりますが、なぜ木造復元ありきですすんで いるのかには納得できません。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	S34 年の現天守閣の建造が戦後復興の証とするなら、 今、まさに有事とも言えるコロナ禍。 コロナ復興の証として木造復元は城下の人々皆が望むこ とだと思います。 そして、400 年の歴史を持つ名古屋城に関わりたいと考 える人々が多いでしょう。 〈speed〉 木造復元に関わる人材について官民間わず決裁権と責 任を持たせなければ、進む事はないでしょう。 <u>文化庁の為に木造復元するのか？ or 城下街の人々の為 に木造復元するのか？</u>

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				答えは明確ですね、あとは Speed 感をもって進んで下さい。応援してます。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	感謝とエールの表現でシャチを降ろすのであれば、大きなかんちがいなのでやめるべき。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	質問 1. 石垣の保全は大丈夫ですか？ 2. バリアフリーについて具体的案がないが、大丈夫ですか？ 3. 現段階で、完成するまでにどれくらい費用がかかりますか？ (個人名)に回答してくれるとうれしいです
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	・学芸員による講演は、新たな知識を得ることが出来、非常によかったと思います。出来ればスライドの資料も用意してもらえればよかったと思います。 ・バリアフリー化問題での身障者団体との話し合いや、石垣部会との話し合いなどの詳細が説明できればよかったと思います。今後の具体的説明を希望します。 ・木造史実復元と身障者バリアフリーの両立はどのようにするのか、具体的方法について知れたかった。 ・クレーマー対策をしっかりとってから説明会を開催して下さい。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	・何が問題で時間がかかっているのか具体的な説明があれば理解が深まると思う。 ・文化庁が復元と解体を一体で申請するように、との指導があったが、地元有識者の石垣埋蔵文化財部会は復元に関する議論はしないと言っている。これでは議論が進むはずはないと思う。

③港文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	天守の木造復元の際、天守台石垣が現状のままでよいのか心配です。特に東側は高熱を受け、脆くなっているのではがれ落ちるのではないのでしょうか？
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	
市外	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	木造復元には関係ないですが・・・ 名古屋城は、お客さんはあまり重要ししていないと思われるが？ (例)昨年紅葉を見に行ったら、西之丸に仮設の建物が設置しており、土手側の紅葉が近くで観ることが出来なかった。この建物は催しは終了していたから早く撤去して観光客に開放すべきではなかったか。
市外	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	反対意見があるのはわかるけど、あのグループは大変目ざわり、見苦しい。
名古屋 市内	50 歳代			上社に引き続き2回目の参加であるが、説明会を妨害する人がいたのが非常に残念である。何を考えているのか。あげ足をとる行為などで、又、勝手にPadやサツエイをする人がいて、全く非常識な人です。 賛成の人か反対の人か全くわからない人です。妨害はやめて欲しい。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	丁寧に説明いただきありがとうございました 前列中央の方の態度が残念でした
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	早期実現を期待しています。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	30 歳代	理解が深ま った	理解できた	本日は学芸員による講演が楽しみで来ました。(石垣) 普段とは違う切り口で説明が聞けてよかった。 撮影禁止の対応中途半端になってしまっているのが悩ましい。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	みなさん、大事業本当におつかれさまです。木造復元さ れる日を心から楽しみにしています。個人的に今の名古 屋城が大好きなので解体には反対なのですが…説明会 を開くに、やはり耐震のことなど考えると仕方がないことか …と。 名古屋城の解体後、瓦れきなど瓶詰めして売ってくれな いかな…と希望しています。配ってくれたら更にうれしいで す。自宅窓から見える名古屋城(あまりに好きでここに決 めたため)がなくなってしまうのは本当につらい…同場所 に復元されるのか、HPを見てもなかなかわからないので 質問したかったのですが、あまりにも説明会白熱していて怖 かったため聞けずです。笑
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	木造化大サンセイ。 大声でさわぐのは市民の代表ではない
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	本当に木造復元ができるか疑問
市外	60 歳代	どちらでも ない	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	焼えやすい木造化はいらない 耐しん工事をすすめるべきだ。 有形登録文化財の認定を申請すべきだ。
名古屋 市内	60 歳代			進ちよく状況がよくわかりました。頑張ってください。
名古屋 市内	70 歳代	どちらでも ない	理解できな かった	木造復元が忠実にできれば、願うところですが、安全等の ことを入れれば、現実是不可能。 とすれば、 木造化は犬山城で十分。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				また SL でもそうだが明治村に最古のものがある。つまり、市のやっていることは、同県内の小さな自治体が苦心していることに対して、「いじめ」ではないのか、と思えてしまう。木造化復元ということは所詮無理なことではないのかな？あいち県内はみんな仲よくしたいものだ。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	・学芸員の講演を伺ったことにより、名古屋城により愛着が深まった。また学芸員のツアーを広げていただきたい。ボランティアガイドの案内などでこの中身が聞けるのも楽しみである。 ・名古屋市からの説明が丁寧かつ紳士な回答がありがたかったです。 ・大きな声で話されている方にビックリしました。 ・司会者のおちついた対応がこちよく進行も安心しました。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	10 ページ 4. バリアフリーの検討と有るが名古屋城へ来る交通アクセスがバリアフリーが出来ていない <u>天守閣だけバリアフリーを考へても名古屋地下鉄全駅車両床面とホームに 15cm の段差が有りバの字も出来ていない</u> ベビーカーの人が困っている。
名古屋 市内	50 歳代		どちらでも ない	木造で再建については賛成しますが、エレベーターなども取り付けてほしい。 何から何まで 100% 昔のまんまで復元させなくても現在に合ったやり方(耐震性も必要)で建て直してほしいものです。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	・名古屋市政百周年の時に、記念事業の“募集”をしたときに本丸御殿の木造復元をというものがありません。まずは障壁面の復元から始まり、完成するまでに 30 年近くかかったような気がします

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				・河村市長が急がれるのも分かりますが、文化庁の考えもいろいろあり要素も数限りなくあるようですのでおちついてやってほしいと思います。 ・今日の質疑で、オンラインでの開催というのがありましたが、私のようにパソコンもスマホもない人間にはこうして安全対策を実施して説明会を開催していただけることはとてもありがたいことです これからもできる限りでいいので広報なごやに案内をのせていただき開催していただけるといいと思います。 ・天守閣が木造で復元できたあかつきには、本丸全体の復元も考えてほしいと思います。焼失したのは天守だけではないのですから、櫓や櫓門もぜひ復元してほしいです。あと濃尾地震で崩壊した多聞櫓を含めて全体的に復元してほしいと思います

④西文化小劇場

※空欄は無回答

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	天守閣再建に先立って、本丸の多門櫓を再建して欲しい。保存中の木材が有効活用でき、外観も素敵になると思います。 市からの説明資料はスライドの字が多い 目で追えない。 家康のナレーションは GOOD 事業概要と色々な意見をお持ちの方がみえることがわかって有意義な時間を持つことができました。
市外	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	今まであまり感心のなかった名古屋城の天守石垣に興味がありました。 木造天守もみたいし、天守閣の中にも早くは入りたいです。（見学したいです。）
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	・コロナ対策には、きめ細く配慮されていた。 ・説明は、所長がした方がよかった。 ・お疲れ様でした。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	早く木造復元を実現して欲しい。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	宝暦大修理の丁寧な説明ありがとうございました。
		理解が深ま らなかった	理解できた	講演の中で、⑥、⑦、⑧の手順が疑問です。
名古屋 市内	40 歳代	理解が深ま った	理解できた	名古屋市民の誇りとなるような立派な木造天守をぜひ市民が喜ぶような形で実現してほしい。 木造天守復元のプランは全国的に見て知名度が低いと思う。 もっと PR をして全国から応援されるような再計画にしてほしい。 （熊本城の復興は全国から応援されているように感じる） 再現計画のスケジュールを早期に示してほしい。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				金シャチ横丁を拡大してもっとにぎわいのある町にしてほしい。(愛知県体育館の跡地を利用しては?)
市外	60 歳代	理解が深まった	理解できた	・文化庁にスピード感を持って頂きたい。 ・障害者の対応について。 ・バリアフリー、エレベーターの設置等はもう一度考え直す必要性が生じると思う。エレベーター等の設置は災害時の感点から不可と考えられます。差別的な問題ではないと思います。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	場内証明を 50% 下げたほうが? 画面見えやすくなると思います
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まらなかった	理解できなかった	市民をダメして、建てる違法建設は、やめて下さい。 建築基準法、適用除外をしても、耐震・耐火性が確保される訳ではない。 その他の安全性もうたがわしい! 文化的価値より人の命が大事。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深まった	理解できた	・復元事業の説明で家康の音声とプロジェクタを使ったのはわかり易かった。 ・積極的な質問に対して回答も計画で有意義な説明会であった。
名古屋 市内	60 歳代			
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	どちらでもない	どちらでもない	・文化庁の認可が、おりないので、事業遅れ、まだ見透せないことだけは理解した。 ・今回の説明会はあまり意味がなかった感がある。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	どちらでもない	

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	
市外	50 歳代	理解が深ま った	理解できな かった	
名古屋 市内	70 歳代			・天守閣木造復元事業の大枠が理解出来た
名古屋 市内	30 歳代	どちらでも ない	理解できた	二丸庭園地区の調査とはどのようなものか。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	・バリアフリーについてはエスカレーター エレベーターなどの目に見える昇降機は絶対につけないでほしい 文化財のぶちこわしとなる とうめいで他の見学者のじゃまにならない物なら考えても ・忠実と言っても天守地下の台下部の松のクイは鉄筋コンクリートもいいと思う ・天守内は健康な者でも通行が出来る様なものではあってはいけない それがお城だ 石垣北側一部南部の解体積替のとき堀の水を全部抜いて外来種の水動物を駆除してほしい
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	亡き父が天守閣木造復元について、監視を持っていました。戦災前の天守閣に子どもの頃にのぼったそうです。その際、かごのようなエレベーターであって足など不自由な方高齢の方などはそれを使つてのぼれたといっていました。 大きな荷物の搬入のために あったのかもしれません。子どもの頃の記憶なので 確かなことではありません。 父は 昭和9年生まれです。戦災前だと 小学生です。父は令和2年8月にがんで亡くなりました。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				名城病院の病室の窓から、名古屋城をながめていました。 父にとって思い出深い名古屋城です。今後も、多くの人に愛される名古屋城であって欲しいです。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深まった	理解できた	・コロナ対策で、会場前の待ち行列は禁止の告知がされていないので、告知すべきです ・大声「50年後の国宝についてうそを言っているとのヤジは、大声であり、コロナ禍対策上、マズイので、事前、告知が必要です。 ・良い企画でした。 ・3-15の男性(ヤジ大声の方)が、スタンドで録画していた。
名古屋 市内	50 歳代	理解が深まった	理解できた	・名古屋城の本丸御殿を木造で復元するのに、意見をまいてから30年近くかかりました。 - 復元ができてとてもうれしいのですが、PRが少しおとなしいような気がします。 - 熊本城の本丸御殿の時はカラーの立派な本が出版されました。 - だから天守を木造する時も、市民がイメージできるよう冊子を作ったらどうでしょうか - 今日の質疑応答でもいろいろな意見があってびっくりしましたが、もっと分かりやすく知らせることも必要なのでは？と思いました。私のようにパソコンもスマートホンもない人にも伝えられるようにできたらとお願いします。
名古屋 市内	80 歳代	理解が深まらなかった		・冒頭市長さんは城の空襲により焼失を昭和 <u>25</u> 年とおっしゃいました(字幕も)が、20 年が正しい(学芸員説明の通り)ので指摘させていただきます ・質問 3 点ありましたが回答は親切ではありませんでした聞き返したいけれど時間のこともあり、不満を残しました。
市外	60 歳代	理解が深まった	理解できた	一方通行の内容かと思ったが質疑応答が充実してよかった

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
市外	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	早い木造復元を望んでいる
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま らなかった	理解できた	平成 29 年 5 月契約したが、名古屋市と竹中工務店は平成 28 年 3 月以前に戻っている事がわかった。 名古屋市の宝暦復元は「往事の体験」とした御殿とは 150 年違う。城戸久は江戸城から明治に移設した時も「焼ける以前」に復元した。天守に畳は慶応にはあったと思われるが、宝暦にはない。そして、慶応の天守屋根は黒い瓦で、最上階だけ銅瓦であった。その説明はなかった。 昨年 4 月、文化庁が「復元的整備」として、鉄骨でもエレベーターがあっても良いとしたのは、文化財保護法「史跡」とはあわないが、名古屋市の木造天守復元はどのようにおこなうのか。学芸員からの説明が不足している。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま らなかった	理解できな かった	できもしない事業、やれもしない事業をいつまでたれ流しでやるのか。 エレベーターにかわるバリアフリー対策があるなんてばかっているのではないか。
名古屋 市内	40 歳代	どちらでも ない	どちらでも ない	
名古屋 市内	50 歳代	どちらでも ない	理解できた	・実際の文化庁とのやりとりや工程を明確にしてほしい。 ・今の時点で着工予定はいつなのか？
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	・内容は良く理解できました。 ・すみやかに事業が進捗することを望んでおります。
名古屋 市内	70 歳代	どちらでも ない	理解できな かった	徳川家康の声色での説明は、如何にも安易なやり方で不満でした 質問者への関係者への回答も、的を得ていないハッキリしてませんでした
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	質問された方の多くは、再建に関して、反対されてるの に見受けられます 再建復元されるのを待望する者として、もっとわかりやすく、説得性のある意見が必要かと思います。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	どちらでも ない	・講演の資料がほしかった。 ・天守を解体するのにおろした金鯱をなぜもとにもどすの か？
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	何しろ木造復元による再建築をスムーズに進めてほしい。
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	50 歳代	理解が深ま った	理解できた	よくわかりました 早く復元されたお域に行きたいです！ しかし足が痛いのでエレベーターなどバリアフリーの設備 もぜひ付設して下さい。
名古屋 市内	60 歳代	理解が深ま った	理解できた	
名古屋 市内	70 歳代	理解が深ま った	理解できな かった	1/31 市民説明会（西文化小劇場）職員のみなさん、お 疲れ様です。 《市民説明会のもち方》 ◆緊急事態宣言下、感染リスクがある。市民説明会は新 型コロナ収束まで延期するべきだ。「金鯱巡回展」も同 様。市政は、コロナ対応を第一義に。 ◆質疑応答の時間が短い。挙手しても当たらない。以前 は 45 分、今回は 30 分。学芸員の話が無理に押し込んだ から。市民の声をきちんと聞いてほしい。 《木造復元事業について》 ◆（挙手しても当たらなかったなので答えてほしい）知人の 一級建築士から、「史実に忠実な」木造復元は何重にも建 築基準法に違反し、危険で作れないと聞いた。国交省は 4 年前に「国宝・重文をのぞいて建築基準法に従え」とい う通達を出している。このままでは木造復元はできない。 市は国交省・日本建築センターに確認しているか。同じ く、消防庁を管轄する総務大臣に、緩和認定をしている か。

居住地	年代	名古屋城 理解度	説明 理解度	自由回答
				◆(同)新しい収支計画と来場者見込みについて。去年10月、市は「新たな竣工時期を定めて、収支計画を総務省に出す」と答弁したが、この説明会では「竣工時期はわからない」と言った。 そもそも当初の計画では、年間360万人の来場者が50年間続くことを前提とした無理な計画だった。現在、新型コロナの影響で国内外からの来場者が見込めない状況である。一体どうするのか、答えてほしい。

⑤オンライン説明会

※空欄は無回答

居住地	年代	説明 理解度	自由回答
名古屋 市内	70 歳代	どちらでもない	以下の質問に答えられたい。 1. 2016 年の2万人アンケートの項目「現天守閣の耐震工事(概ね 40 年の寿命)」は明らかに誤りである。文化庁も「財務省の減価償却のことで、寿命ではない」と言っている。一級建築士の知人たちも「間違い」と言っている。アンケートの再実施すべきである。 2. 「史実に忠実な木造天守」は、燃えやすく危険でバリアフリーにならない。文化庁、国交省、総務省、消防庁などの了承がいまだに得られていない。これで基本設計が終了したと言えるのか。 3. 約500億円の費用を、50年・年間350万人の入場者がある事を前提にしている。もともと無理な資金計画だが、コロナ禍の今さらに減る。再計画するのか。
市外	30 歳 代	理解できた	
市外	40 歳 代	理解できた	いつでも観られる工夫としてよいと思う。資料も見やすくナレーションも聞きやすい。資料にアニメーション効果を入れるなどして動きを付けるともっとわかりやすくなると思う。
名古屋 市内	30 歳 代	理解できた	家康さんのお話も聞き取りやすく、簡潔で分かりやすかった。会場に行かなくても、自分の都合の良いタイミングで情報を得ることができて、良いと思う。講演会も気になっているので、そちらもオンラインで見れるようにしてほしいです。
名古屋 市内	50 歳 代	理解できた	名古屋城天守閣が木造にて復元されることを、心から祈ってをります。私個人としては、観光の目玉にしようとかいふことではなく、名古屋城天守閣が本来の姿でそこに存してくれているといふことで十分です。敢へて言へば、一般市民は誰も中に入れなくていいと思つてゐます。内部の詳細を示した DVD などがあれば良い。高い所の展望を楽しみたいのなら、現代の技術で作り上げた名駅のビル群にでも行けばいいのです。バリアフリーなどでいろいろ揉めて

居住地	年代	説明 理解度	自由回答
			あるやうですが、名古屋にとって名古屋城とは何か、復元する意味とは何なのかを考へれば、自づから答へが見えてきます。誰もがアクセスできるレジャー施設を作るのが目的ではない、この地の歴史にとって最も大切な物を甦らせる、本当に尊い事業なのです。城があつてこそ尾張名古屋です。独自の存在の仕方があつていいのです。関係者の皆様に、この一介の名古屋人の言葉が届いてくださいますれば幸ひでございます。
名古屋 市内	50 歳 代	理解できた	史実に忠実な木造復元とバリアフリーの両立ですが、江戸時代でも足腰のおぼつかない幼い姫や大老達も天守閣からの眺めを楽しんだ事と思います。あの急な階段を一人で登ったのでしょうか？家来達が大騒ぎしどうにかして、勿論安全面も相当準備して天守閣まで運んだのではないのでしょうか？そういったエピソード(文化)も史実に忠実な木造復元のひとつとして伝承、実行して頂ければと思います。史実に忠実な木造復元とは形(建物)だけのことではないですね。
名古屋 市内	50 歳 代	理解できた	毎回市民説明会に出席しており復元の進捗状況を楽しみにしております。今回オンライン市民説明会で YouTube 映像による説明と PDF で説明資料により進捗状況がよく分かりました。今後も文化庁と協力して復元が進展することを期待します